

# 麻生リトル・ラグーメン



神奈川県川崎市

麻生ラグビースクール

## 県大会を終えて

副校長 古田 十

暑い夏が終わったと思ったらアツという間にラグビーシーズンとなり、県大会も大けがなど大過なく終了しました。

結果は悲喜こもごもといったところでしょうか。なにより特筆すべきは、6年生2チームの優勝は麻生ラグビースクール史上初(!)の快挙でしょう。三浦校長の掲げる小学校最終学年での優勝の目標を4年ぶりに達成してくれました。

各学年の打ち上げに参加しましたが、どの学年の会も和やかな雰囲気楽しく過ごさせていただきました。グラウンドでのそれぞれのドラマは各学年の文章に譲るとして、他の事を。

「なでしこのおしえ」(発行所: 武田ランダムハウスジャパン)という本を読みました。県大会を控えた担当学年の4年生に、少しでもためになればと思い一度紹介をしましたが、ぜひ麻生の子供たちに見てもらいたいで、長くなりますがすべて引用します。

「おしえ」が35個あります。なでしこの選手たちの言葉を記したものだそうです。

- おしえ1 最後まであきらめない
- おしえ2 具体的な目標を持つ
- おしえ3 成功のための近道はない
- おしえ4 自分のことは自分でやる
- おしえ5 努力は、裏切らない
- おしえ6 自分を信じる
- おしえ7 一生懸命やることを恥ずかしがらない
- おしえ8 どうしてミスをしたかをよく考える
- おしえ9 過去の結果は過去のもの
- おしえ10 「できる」と信じるから「できる」
- おしえ11 いつも、もっと上を目指す
- おしえ12 「くやしい」は大きな力の源
- おしえ13 できないことを周りや他人のせいにならない
- おしえ14 自分の弱さを知る
- おしえ15 欲しいものを手にするためには、何かをガマンしなければならない
- おしえ16 支えてくれる人がいるから力を出し切れる
- おしえ17 自分がキツイときは相手もキツイ
- おしえ18 いつもそこにあるものは当たり前じゃない
- おしえ19 自分を知ってほしいければ、まず相手を知る
- おしえ20 一人で戦っているのではない
- おしえ21 失敗をムダにしない
- おしえ22 つまらないと思うことでも、続けることで力になることもある
- おしえ23 いつもチャレンジすることを忘れない
- おしえ24 ビックチャレンジこそいつも通りに
- おしえ25 相手の気持ちになって考える
- おしえ26 “切り替えスイッチを持つ”
- おしえ27 「自慢」より「感謝」を
- おしえ28 一緒にがんばってきた仲間を信じる
- おしえ29 自分に言い訳は通用しない
- おしえ30 ひとつひとついいいに取り組んでいく

- おしえ31 時には自分をほめる
- おしえ32 とことんみんなで話し合う
- おしえ33 自分で考えて行動する
- おしえ34 自分が終わりを決めなければ終わらない

### おしえ35 一人のために全員が、全員のために一人が

大人も教えられることが多くないですか？

そして、もう一冊。

大森コーチが多数調達していただきました、「友情と尊敬」(著:藤島大)。

その前文をぜひご覧ください。

私は麻生のスローガン「次代を背負う若者づくり」を表わしたものだと思いましたが、こう言ってもらえるコーチになりたいと日々思っています。

最後に、選手のみなさん、おつかれさま。おかげで、コーチたちは充実した楽しい2カ月余りを過ごすことができました。

ご協力をいただきました、ご父兄の皆様ありがとうございました。

以上

### 全速力の風景

技術担当 大森 昇

今年の県大会も無事に終わり、麻生からも幾つかの優勝チームが出ました。良い結果を出せたチームも、あと一息であったチームも、麻生の代表として実に一生懸命戦い、気迫のこもったナイスゲームが各地で繰り広げられました。

ミニ年代のゲームでは、ほんの少し体格が大きかったり、ほんの少し足が速かったり、ほんの少しラグビースキルが高いたいで、試合で目立つプレーが出来てしまいます。試合で見かける「あの子すごいね～」と言われトライを量産しているプレーヤーでも、他のプレーヤーとの差が大きい訳ではなく、1学年上の学年の試合に出場させると途端に凡庸なプレーしかできない状態になります。身体的な成長の早い、遅いで試合結果が決まっている要素もあるので、優勝したからといって慢心せず、結果が出ないといってがっかりしすぎるのが無いようにしたいものです。

U15、U18 とカテゴリーが進んでも、初心者だが基礎体力に恵まれたプレーヤーが、競技歴が長いメンバーを相手に活躍してしまうことがラグビーにはよくあります。競技歴が長くても、スピードとパワーに頼り切ったラグビーをしていると痛い目に遭います。スクールとしては、しっかりとスキルを子供達に教えて「ラグビースクールで学ぶことによる将来的なアドバンテージ」を与えていきたいと思えます。

将来的なアドバンテージを考慮すると、ミニ年代から取組みたいスキルの方針は

- ① サイズが小さい者が大きい物を倒す・突破するスキル(身体が大きくても必要)
- ② 習得に時間がかかるスキル

となります。

①は低い姿勢で移動し、相手とコンタクトするスキル、走る角度を使いこなすスキルなどですが、定期的に行えば、比較的短い期間で習得できます。

左右ともによく伸びるスクリュースパス、左足でのキックなど利き手、効き足にとらわれないこと、上半身と下半身を同時に使うモールワークなどは②ですが、繰り返し練習すれば効果の測定が容易(出来るようになった、と判る)なので、スキル指導としては悩まずに教えることができます。

②で一番見落としがちなのが、「周囲を見て、正しい判断を行うスキル」です！

ボールを持っているプレイヤーの判断は目立つので、印象に残りやすいのですが、ボールを持たないプレイヤーの判断とアクションが本当は大切で、発生する頻度を考えても試合に与える影響度合いは多大なものがあります。

試合を見ている大人たちは立ち止まって、俯瞰した視点で試合を見ているので、空いているスペースや、攻めるべき方針が判りますが、実際にグラウンドレベルで戦っている子供達が見えている風景は全く違います。視界を遮っている数人の相手プレイヤーの向こう側に空いているスペースがあったりする訳です。

立ち止まっている大人と違い、プレイヤーは全速力で走り回りながら、スペースを探したり、ボールを奪うために相手とファイトする判断をしなくてはならないのです。試合のどの場面でも、良い判断が出来るようになるためには、結構な時間がかかります。初めは1試合に1つくらいから始まり、徐々に増えていくイメージです。

良い判断は良いプレーに直結しています。良い判断をしたときに見えていた「全速力の風景」は強烈に脳裏に焼きつきます。たくさんの「全速力の風景」を多くの子供達に残せるように、そして将来的なアドバンテージを得られるように麻生の全コーチは頑張っています。

えっ、誰ですか「私もその風景が見た〜い」なんて言っている「お嬢様」は？ 大丈夫です。お子さんが6年生になったときに「親子試合」で味わえると思いますよ。お楽しみに！

## DAGS

### 「県大会が終わって」

中学2年 小山田 弦

中学1年のときには試合に出ました。今ではベンチです。なぜですか？それは、並々で物事をこなし、内容を理解する前に県大会をむかえたからだだと思います。中1のころを思うとくやしいです。しかし、中1と2年ではちがうことがあります。それは、目標や夢が見えてきたからです。ぼくの一番とくいなことは一つだけです。体力でもなく、力でもなく、走りでもない。一番とくいなことは、声です。体力のないぼくは、走りながら声を出すことができなくなります。だから、来年の県大会ではベストコンディションでむかえて最後の県大会を勝ちぬいて優勝したいです。

### 「初めての県大会」

中学1年 亀田幹太

今年の県大会は、部活などの関係でなかなか出席できませんでした。しかし出席できるときには自分の出せる力をできるだけ出せるようにしました。僕はFWなので、モール時に少しでも前に進めるようにしました。来年からは今の2年生と一緒に出来るだけ県大会に参加していきたいと思います。

### 「初めての県大会」

中学1年 山本凌介

今年のDAGS一年の県大会前では、「このチームだったら全勝できるのではないか」という自信がありました。それは毎週の練習にみんなが来て豊富な練習をしていたからです。その自信どおりCチームは3勝をすることができました。しかし宿敵横浜には完敗してしまいました。その後の鎌倉、茅ヶ崎合同チームにも負けて、結果5戦中3勝2敗に終わりました。なので来年は大会前に持った自身を力に変えて今度は全勝したいです。

### 「難しいな！楽しいな！」

DAGS コーチ 三沢洋

#### 今年度『神奈川 DAGS』県大会の成績

Aチーム(3・2年生で構成)1勝3敗

○ 29-17 VS 大和CCRS

● 5-40 VS 横須賀市RS

● 64-0 VS 藤沢RS

● 12-40 VS 厚木/海老名/秦野

Cチーム(1年生のみで構成)3勝2敗

○ 38-7 VS 横須賀市RS

○ 15-5 VS 厚木/秦野

○ 20-10 VS 海老名

● 0-66 VS 横浜2

● 21-24 VS 鎌倉/茅ヶ崎

中学を担当し感じた事は、私自身のレベルを上げないと勝つ事が難しい事です。素直な子供達の気持を、僅かな回数の練習の中でラグビーに集中できるようにするか、適切なコーチングを行うか、ラグビー経験の無い中で楽しみながら子供たちと共に成長していこうと考えています。

そんな中、今年の県大会は3年生にとっては悔いの残る県大会だったと思います。いろいろな選手の想いは有ると思いますが、この悔しさは高校で晴らしてください。まだまだラグビー人生は始まったばかりです。2年生は自身の事とチームの事をメンバー全員で話し(コミュニケーション)最高のDAGSを目指しましょう！悔いの残らないように！1年生はなぜ負けたのか、次に負けない為に自身が何をやるのか考えましょう。そしてもっとラグビーを好きになりましょう！

最後に、泰盛&元太 お疲れ様！ありがとうございます！

## 6年生



「2012年度 6年生神奈川県大会 最高でした。」

6年生チーフコーチ 小作 紀昭

改めて、6年生県大会優勝おめでとう！

“麻生の大將チーム”として君たち6年生は最高の結果を手に入れることができました。

麻生としては初めての6年生2チームが県大会にエントリー。2チームが全勝優勝を飾れたこと…麻生RSの歴史に残るでしょう！（加賀さん、御願いですから残してくださ～い！）

ギリギリでも2チームが組める人数とは好敵手がいつも存在する恵まれた部分の一方で 仲間で妥協しあう部分(まっ！こんなもんかな？試合は出れるし…的な)が共存していたかもしれません。麻生のセカンドジャージである赤紺の色分けから長年、赤チームと紺チームとしてまとめていました。校内の練習試合ではどちらか一方が常勝することなく、互いのチームカラーを持って、妥協く競い合う気持ちが勝ったと思います。(校内戦で負けたチームが大泣きした時もありました。)

作文を書いている今となると神奈川ファイナルカップ(2013年2月16日、2月17日)に子供達の気持ちは向かっています。

県大会祝勝会では御守りストラップを子供、コーチが共有しファイナル必勝を誓いました。

これまでの赤／紺2チーム(20名)の力を1つとして、麻生6年生のドリームチームを組むのです。(チーム組成はコーチとして、嬉しくも大変悩ましいことです。)

6年生は、このメンバーでの最後の公式試合となるファイナルカップ。

(カップ戦決勝のメンバー発表で麻生の20名が呼ばれることを夢見ています。)

皆さん、保土ヶ谷グランドまで是非応援に来て下さい。

6年生必ず、頑張ってきてます！

### 「6年生 優勝おめでとう！」

6年生コーチ 山中 淳郎

6年生のみんな、県大会のダブル優勝本当におめでとうございます。コーチ達が考えていた最高の結果をみんなは自分たちの力でもぎ取りました。みんなでつないでトライを取るラグビーを目指して練習してきて、どの試合でも見事にやり遂げていましたね。赤チームは藤沢戦、紺チームは横須賀戦と山場の試合がそれぞれありました。どちらもハラハラドキドキの展開でしたが、最後まであきらめずに全員が持てる力を出し切ったから勝てたんだと思います。あの時のみんなの集中力は本当にすごかった！

さあいよいよ卒業まで4カ月、2月のファイナルカップまでは2カ月半となりました。この県大会で養った集中力を維持したまま、ファイナルカップに向けての練習に取り組もう。誰も手を抜かずにやりきった時にファイナルカップでも最高の結果が待っているはずですよ。

ご父兄の皆様、いつもながらの熱い応援とコーチ陣へのフォローを有難うございます。今年の県大会は雨が多くて応援も大変だったと思いますが、いつも本当に有難うございました。早いもので残り4カ月となりましたが、最後まで三位一体で3月に満面の笑顔で卒業しましょう！よろしく願いいたします。

### 「6年生両チーム同時全勝優勝おめでとう」

6年生コーチ 毛利 昌康

平等な戦力になるように赤と紺という2チームに分けられ、1年間がんばって来た6年生。ともに全勝優勝おめでとう。なんと素晴らしいことか。低学年のころから、君たちは素質あふれる素材がそろっている相当恵まれた学年であった。各個人それぞれの可能性は十分あった。しかし、それを実際優勝するということまで持っていくにはかなりの厳しい道のりでもあった。君たちそれぞれの努力が一番ではあるが、父母の皆さん、コーチたちの努力がひとつになって始めて達成できたということも理解してほしい。

夏合宿ではみんなかなりがんばった。しかし県大会直前でも、君たちの本気度は100%には見えなかった。県大会が進むにつれて本気度が増して行ったように感じる。でもコーチとしてはまだ100%本気になっていないと感じている。残りの短い期間で、本気度100%の試合を見せてもらいたい。それが君たちの素質をさらに開花させ、次の成長につながる。ラグビー以外のことに対しても。

### 「最後の県大会」

6年生 伊藤 大吉

僕は、去年に続きまたも指を骨折しました。でも、去年とちがって早く治ったのでとてもよかったです。

県大会では1試合目、2試合目と連勝しました。特に印象に残った試合が、そのあとの3試合目です。とてもいい試合でした！！(感動！！)だけどその試合では僕は全然活躍できなかったのもその分ファイナルカップで頑張りたいです。

県大会では僕はいろいろな事を得ました。少し足が速くなった、(骨折をしてなかったら出来てなかったかもしれない(笑))、少しやせた、ラグビーへの気持ちが強くなった。

卒業まであと4ヶ月、悔いの無いように、自分のもっている力を全て出し切ります。

### 「最後の県大会」

6年生 井上 謙亮

ぼくは、6年生最後の県大会で全勝優勝を目指してとりくみました。結果は、全勝優勝することができました。この県大会で一番印象に残っている試合は、最終の厚木戦です。その試合が印象に残っている理由は、赤チームの優勝、そして2チーム両方の優勝が決まった試合であり、さらにトライを取ることができた試合だからです。又、もう一つ印象に残っている試合があります。それは2試合目の藤沢戦で、あまり走れず、苦戦したことです。ファイナルカップでは、そういうことが無いように、しっかり練習をしたいと思います。

## 「県大会を終えて」

6年生 大坪 勇太

僕が一番印象に残っている試合は横須賀戦です。前半始まってすぐにかなりやられてしまい、本心負けるかも・・・、とってしまいました。

いつもだったらここでみんな下を向いてしまってポロ負けするパターンだったけど、今回は違いました。これまでずっと勝っていて全勝優勝が掛かっている試合だったし、わざわざジャカルタから向野コーチが観に来て下さってるのに、ポロ負けする試合は見せたくないと思いました。

完封負けしそうな勢いだったので、僕は早く流れを変えないとヤバイ！と思いました。だから、かなり強引なやり方だったけど、とにかくガムシャラに走って前半2トライ返しました。でも、まだ相手の勢いを抑えることは出来ませんでした。

ハーフタイムに校長がこんな状態なのに、「みんな良く頑張ってる！！後半もこの調子でいけ!!」と言ってくれました。僕は、校長が僕達の事を信じてくれていると思い、その気持ちを無駄にしたいと思いませんでした。みんなも同じ気持ちだったのか後半はエンジンがかかってきて、これまでにない力を発揮して結局逆転勝ちできました。

負けるかもと言う気持ちより勝ちたいと言う気持ちが勝って最後まで諦めなければ、こんなに強くなれるんだ！！この気持ちを忘れず、ファイナルカップに挑みたいです！！

## 「初優勝・県大会」

6年生 大森 公乃祐

「最後の県大会は優勝して終わりたい。」

それは僕の目標だった。3年、4年、5年、今年で4回目。過去3回とも優勝することがなかったからだ。だから、優勝するため、毎週の練習を一生けん命にやった。

県大会の対戦相手が決まった。大和B、藤沢B、厚木の3チームと試合することが決まった。僕は「このブロック、イケるかもな」と思った。

チームのみんなとも「このブロックはきっと勝てるから、ただ勝つんじゃなくて無失点でいこう。」と話した。

大和との最初の試合。やってきたことを全て出して勝つ。一本を先制。緊張は解けた。あっという間に試合終了。結果は快勝、54-0で勝った。けれど、やってきたこと、コーチに言われていたことの全部は出来なかった。

次の試合までは3週間ほど空いていた。だから、前の試合の「出来なかったこと」を直すことができた。

藤沢Bとの試合は天候が悪く、雨が降る中での試合となった。ボールは滑り、なかなか得点をとることができなかった。結果は相手のミスにも救われ、14-12と、ギリギリで勝った。あと一勝で優勝。

「全試合・無失点はできなかったけど、次の試合はどうしても勝ちたい！」そう思っただけで最終戦。最初のキックオフをウイングが追い、相手のキャッチした人をタックル。キャプテンがボールを奪い、そのままトライ！良いかたちのトライを取れた。このままの調子で前半、後半と進んだ。相手の大きいセンターに何本か抜かれそうになったが、止めることができた。結果は72-0で勝利。こうして、初優勝が決まった。公式戦、おかわり試合を含めて4戦4勝で終わることが出来た。

けれど、県大会は少しブロックの相手にめぐまれたただけだと僕は思います。ファイナルカップで優勝して終わりたい。そうすれば、より喜びも大きくなると思います。

まあ、県大会優勝できて、よかったです。



### 「県大会を戦って」

6年生 川原 奨平

今年は、県大会に入る前に、個人としても、目標を決めていました。それは、2つありました。1つ目は、体力をつけること。なぜかという、試合の中ですぐバテてしまうことがあったからです。途中でバテてしまうと強い当たりができなくなるので、最後までみんなについていくためにも体力は必要だと思ったからです。2つ目は、フォローをすることです。ボールを持っている人について行って、必要な時にボールを受けたり、スィープには入れたりすることが必要だと思ったからです。そのことを思って臨んだ県大会では、思った通りにフォローに入ることもできて、よかったと思っています。その結果、優勝もできて、MIP賞ももらうことができてよかったと思いました。

次のファイナルカップに向けては、さらに体力をつけたいと思っています。でも、大きな相手に当たって腰の筋肉を傷めたりしてしまったので、スィープに入る時の形をもう一度確認しなおして怪我をしない選手になりたいと思います。

### 「最後の県大会」

6年生 齋藤 裕太

僕の最後の県大会。試合回数はおかわり試合を含めて4試合。結果は全勝！

最後の年でついに優勝できた。最高の結果だった。チームのみんなの思いがひとつになった気がした！

夏合宿の時、つきっきりで教えてくれたコーチに恩返しをできたと思う。

次の目標はファイナルカップの選抜に入ってファイナルカップで優勝する事！この目標にむかってがんばって行きたい！

### 「最高にうれしかった最終戦」

6年生 佐藤 公亮

ぼくは、県大会直前に日大の練習で骨折してしまいました。お医者さんから三週間ラグビー休みなさいと言われました。なんとか、三試合目の最終戦には間に合いました。でも、三週間運動をしていなかったのも、動きがにぶいのが自分でも分かりました。「こんな状態で、みんなの足手まといにはならないのか？」と、県大会前は、とても心配でした。

最終戦は横須賀。コーチから強いチームだと聞いていたので、とてもプレッシャーがかかっていました。ぼくの出番は後半戦。前半、横須賀はコーチが言っていたように強く、3回トライされてしまいました。後半、今まで練習してきた事を全て出し切る気持ちでがんばりました。睦が、ボールを置き、ぼくがそのボールを持って走りました。トライゾーンの近くだった事もあり、トライ！県大会最終戦で自分がトライできた事は最高にうれしかったです。紺チームのみんなのおかげです！！

### 「優勝!そして今後!!」

6年生 菅原 健人

県大会では、修学旅行のため一試合には出場できなかったけれど、優勝できたので良かったです。

今回の反省点は、ボールを落とした時の処理と声です。今後は、ボールを仮に落としたとしてもセービングをしてボールを取りたいです。もう一つの声は、もっと声を出していきたいです。

今後の目標は、相手のディフェンスラインにギャップができたり、相手のディフェンスが正面より外側に立っていたら、そこに向かって走り込みたいです。

ファイナルカップでは、その目標と反省点を心がけて挑みたいです。

## 「小学生最後の県大会」

6年生 中司 大也

ぼく達は最後の県大会で、両チーム全勝優勝することが出来た。

県大会前にはぼく達の弱点をこくふくするために朝早く集まり練習をした。

ぼくの目標は全試合完封勝利することだった。しかし、3試合中、1試合だけトライ数が同じで悔しい試合をしてしまった。勝ったのに嬉しくなかった。この試合はノックオンが続き、ぼく達のミスが目立った。この悔しさを絶対最終戦にぶつけようと思った。

紺チームがぼく達より先に逆転勝利で全勝優勝した。とても、感動する試合だったので、ぼく達も最終戦は気合いが入ったがプレッシャーもすごかった。最終の厚木戦はいつもの自分たちのプレーが出来満足出来た。

ぼくはこの県大会で、自分を信じて仲間を信じる事の大切さ、最後まであきらめない気持ち、大きな声を最後まで出し続け、勝ちたいと強く思う気持ちがとても大切だと思った。

海外から向野コーチがいつもメールを送ってくださって、アドレスしてもらい、はげまして下さった事もぼくのおかげになったと思った。ありがとうございました。

## 「目標達成」

6年生 西野 響太

ぼくは、県大会が始まる前に目標を考えていました。それは二つあります。

一つ目は、早くパスを出して、攻撃をもっと早くすることです。

二つ目は、自分が行けたら行くことです。相手のすきをついて、トライをすることです。

そして、この二つの目標は両方とも達成することが出来ました。

一つ目のパスは、前よりパスが速くなり、攻撃も早くなっていたのでよかったです。それは家でお父さんとスクワットの練習をしたからだと思います。

二つ目のトライする方は、前より自分でトライするように意識していました。

次のファイナルカップに向けては、もっと早くパスが出来るように練習をがんばっていきたいです。

## 「今年の県大会」

6年生 野川 真

僕は、今年書き初めで「全勝優勝」という言葉を書きました。その言葉を目標に県大会にのぞみました。2勝でむかえた横須賀戦。前半は2本対4本と、少し差がついてしまいました。正直「きついな」と思っていました。けれど、ハーフタイムの時に三浦校長が言った「俺は、お前達を信じている。」という言葉聞いてハッとしました。校長はじめ、応援してくれている多くの方々に残念な思いをさせるわけにはいかないと思い、後半にのぞみました。きっとチームのみんなも同じ気持ちだったと思います。後半に入ると、みんな動きがよくなりました。そして、同点トライが決まった時、僕はその場で飛び上がって喜びました。その後も、2本のトライを重ね、試合に勝利しました。みんなが力を合わせた結果だと思います。ファイナルカップに向け、練習をして、成長したいと思います。

## 「タックル」

6年生 萩原 睦

ぼくが県大会で一番できたのはタックルです。

特に県大会最終戦の横須賀戦ですごくタックルができた気がします。前半はあまりタックルができなくてトライ数も0-4で負けていたけれど、後半であきらめないでがんばってタックルして6-4で勝てました。その結果全勝優勝できました。初めての優勝だったのでうれしかったです。

ぼくは2年生の11月にラグビーを始めました。最初は何もできなかったけど、やっていくうちにまずタックルをおぼえました。その時から毎年毎年ラグビーの目標は「タックルをがんばる」でした。ぼくはあまりぬいたりするのはうまくないので、これからもタックル(ディフェンス)で活躍したいです。

### 「みんなで戦った県大会」

6年生 濱田 透唯

今年の県大会で感じたことは、練習の大切さでした。朝練もみんなで決めて毎週取り組みました。

しかし、ひとりひとりのモチベーションが違ったりするとうまく練習が進まないこともありましたが、今年はそんなことで、あきらめることなく練習に集中することができました。初戦は鎌倉・YC との戦いで久しぶりに対戦する相手だったのでなかなか自分たちのペースでゲームを進めることはできなかったけど、勝つことができました。2試合目悪天候の中でしたが 完封で勝つことができました。

そしていよいよラストゲーム。試合開始すぐに相手にトライされてしまい、その後も相手に翻弄される展開になりました。ハーフタイム、校長の言葉でみんなに気合いがはいり、大逆転で優勝をつかむことができました。

今年はみんなで勝ち取った優勝だと確信しました。この調子でファイナルカップも優勝したいと思いました。

### 「最後の県大会」

6年生 真山巧也

まず、県大会でぼくができなかったことは、トライをしたかったけれどボールを持っている仲間に追いつくことができなかった。くやしかったです。ファイナルカップではぜったいトライを取りたいです。次のチームでは、フォワードのレギュラーにして欲しいです。

### 「最後の県大会」

6年生 宮澤 朋輝

六年生になり最後の県大会。目標は全勝優勝、そして全力を出し切ることです。個人的な目標は、内から外へおいこみ低くたおすタックルです。

初戦の鎌倉・YC 戦僕は、なんとなくスイッチが入らず、試合になってしまいました。しかし、味方がトライしてタックルが入れてスイッチがはいり、がんばりました。結果は勝ててディフェンスもしっかり出来たのでよかったです。

二戦目の川崎戦前半バンバン点を取れて、こっちのペースでした。後半はディフェンスを意識してやっていこうと思いました。ラックでマイボールになったのでアタックの方が多くて大勝しました。

最終戦の横須賀戦、勝てば優勝という試合でした。しかし前半横須賀に1点、2点と点を取られてしまい麻生は負けムードが出てきているようでした。前半は28-14で負けていました。後半みんなが気持ちを入れかえて行き、後半の始めおされていましたが、トライはさせずに後半も半分くらいになりました。公亮が同点トライを決めて28-28、皆で力をあわせて勝つことに向かって出来たと思います。そのあとトライを2つとり42-28で逆転勝利をしてとてもうれしかったです。

しかしおかわり試合のときもうボロ負けという感じだったのでファイナルカップに向けてがんばりたいです。

### 「気持ちよかった」

6年生 横島拓朗

今まで公式戦でも、夏合宿でも、いろいろな強ごうと試合をして、勝ったことも負けたことも、たくさんトライができたこともあったけど、今年の県大会の最終戦はすごく気持ちがよく、楽しかった。その横須賀戦では、自分は1本もトライをしなかったけど、自分が県大会の優勝へ導くトライに関わったことにすごく感動している。逆転のトライが決まった時は、みんなで喜び合うことができ、他の試合では味わったことのない一体感に包まれ、さらに次のトライを重ねることができたと思う。麻生ラグビースクールの紺チームとしての、最後の公式戦だったので、本当に勝てて気持ちよかった。

「優勝おめでとう！」

6年生 井上 謙亮（父）正敏

6年生の皆さん、県大会優勝おめでとう！

それぞれのチームとも3試合の中で、接戦で勝ち取った試合がありました。接戦で勝ちを得られたのは、みんなが1人1人自分のやるべきプレーをやった結果だと思います。みんなで勝ち取った優勝です。感動を有難う。小学部終了までもう少しです。その間ファイナルカップもあります。悔いの無いよう、最後までがんばってください。

ここまで導いて頂いたコーチの皆様、有難うございました。残り少ない期間ですが、引き続きご指導の程、宜しくお願い致します。

「県大会」

6年生 大坪 勇太（母）咲恵

とうとう小学生最後の県大会が終わってしまい、正直とっても寂しい気分です。でも、最後の最後に、子供達は私達にとってもステキなプレゼントをくれました。

紺チーム対横須賀戦は、みんな負けると思ったんじゃないでしょうか。現に私も始まってすぐに子供達が可哀想になって泣いていました。でも、後半の盛り返しは凄かった！！みんなの底力を見せつけられた気がしません。優勝した事よりも、横須賀戦での頑張りを見られたこと。私の一生の思い出です。本当に有難う！！！！

ファイナルカップでも、こんな素晴らしい試合が出来るの良いな……。とにかく絶対最後まで下を向かないで欲しい。苦手意識を捨てて、どんな相手でも、最後までやりきって欲しい。この県大会でこんなに頑張れたみんなだから絶対に出来るはず！！私も最後まで声が枯れるまで応援します！！

「挨拶」

6年生 齋藤 裕太（母）

いつもお世話になります！

6年生の子供たち、優勝おめでとう！コーチの皆様、本当にありがとうございました！

最後の県大会で印象に残ったこと…、それは始まりと終わりにする「挨拶」です。（試合と書かなくてすみません…）チームキャプテンの「ありがとうございました！」に続いてみんなが声をそろえてする「ありがとうございました！」とお辞儀。すごく格好良かったです！

コーチにお聞きしたら「気持ちを込めて挨拶すること」と伝えたと。どうするかは子供たちが考えたそうです！

小さな、小さな子供たちでした。その小さな子供たちはたくましく成長し、大人たちが涙するプレーを見せてくれるようになりました。

次はファイナルカップです！すべてを出しつくし、思いきり暴れてきてください！みんなの最高のプレーと笑顔を見せてください。

コーチの皆様、よろしくお願ひいたします。

「感動をありがとう」

6年生 佐藤 公亮（母）栄子

「感動をありがとう。」公亮の母となり12年弱。こんな言葉が言える日が来るなんて、今でも夢を見ているようです。県大会第一戦、我が家の都合で不参加。その後の通常練習で、まさかの骨折。第二戦も不参加。公亮の不参加で二戦まで勝利し、公亮も私もとんでもなくプレッシャーの掛かった第三戦。対戦相手は横須賀。公亮は後半出場。前半戦は前評判通り苦戦。ハーフタイム…、公亮グランドへ。個人プレーのピアノと違いラグビーはチームプレイ。これまでに経験したことのない緊張。「神様！」「もう、また骨折でも良い！思い切り悔い

の無いように！」そんな事を考えていた時、奇跡は起こりました。公亮がボールを持ち、同点のトライ。スローモーションのように見えました。それから麻生トライ、麻生トライで逆転勝利！！

私のこれまでの人生、大して長くない私の人生で、こんな感動は初めてです。昨年、1学年上の子達のプレーを見て、わが子達が追い付けるのかとても心配した事を思い出します。体格的にも恵まれているとはとても言えず…。その麻生紺が、全勝優勝と共に感動のプレー。公亮の母としてもこんな文章が書ける日が、来るなんて…。

麻生ラグビースクール本当にありがとうございました！！三位一体が実現した6年、ファイナルカップも楽しみにしたいです。

#### 「県大会」

6年生 中司 大也 (母)

小学生最後の県大会を無事終える事が出来ホッとしました。コーチの皆さまにはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。2チームを全勝優勝へと導いて下さり、たくさんの感動を頂きました。

どの試合もみんな力の限り一生懸命望みました。中でも紺チームの劇的な逆転勝利には本当に子供たちのそこかに感動しました!!!赤チームもどの試合も声を出しあい、それぞれが仲間の大切さを改めて感じた試合だったと思います。

これからファイナルカップに向けもう一回り大きく成長してくれるであろう子供たちの姿が楽しみです。

まだまだ応援させていただきます！

#### 「6年生の皆さんへ」

6年生 西野 響太 (母)

6年生の皆さん、県大会 W 優勝おめでとうございます。本当によく頑張りましたね。

昨年と比べて大きく変わったと感じた点は…

自分達で話し合い、考えてプレーを出来るようになった点

仲間の為に声を出し合い、仲間を信じパスを繋げ、貪欲に点を取りに行く姿勢が見られた点

一人ひとりが「チームの為に何が出来るのか」を考え実行していた点

この一年で想像以上に大きな成長を遂げてくれましたね。皆さんの一試合一試合、応援していて感動しました！

この勢いでファイナルカップも感動させて下さいね。

#### 「小学部最後の県大会」

6年生 野川 真 (母)

6年生でむかえた最後の県大会。2チームエントリーして、2チーム共に全勝優勝。本当におめでとうございます。三浦校長はじめコーチの皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。2月には、ファイナルカップがあります。このメンバーでできる最後の大会です。悔いを残さない様、精一杯練習して、ファイナルカップにのぞんで下さい。

#### 「自分の仕事を確実に」

6年生 萩原 睦 (母) 信子

6年生の皆さん、コーチの皆様、両チーム全勝優勝本当におめでとうございます。そして感動をありがとうございました。

いつも試合を見るたびに子どもたちの成長を感じます。今回の県大会ではプレーのうまさはもちろん、子どもたちの心の成長と団結力を感じました。特に横須賀戦での大逆転。一人一人が自分の仕事を確実にやり、仲間を信じ、あきらめない姿に、こんなに強い息子になったのかと多くの母(+コーチ)が涙しました。

さて次はファイナルカップ。母には応援するしかできませんが、子どもが思いっきりラグビーできるように、ご飯を食べさせ、元気でいられるよう頑張ります。

### 「小学部最後の県大会」

6年生 濱田 透唯 (母) 玉貴

今のチームメイト・そしてコーチたちと挑める最後の県大会、毎年思うことですが全勝優勝！という気持ちで初戦から親の方が緊張していました。2戦目あいにくの雨にも関わらず、完封してくれました。いよいよラストゲームこれに勝てたら…という試合になんと向野コーチが飛んできてくれました。こうなったら「絶対勝つぞ！」で試合がはじまったのに開始からトライを決められて、その後も相手に翻弄される展開になりました。いつもの紺チームのパターンだと誰もが負けを確信し、私も応援しながら泣いていました。

しかし、この日の紺チームは何かが違うっていて、ノーサイドの笛がなったときには 歓喜の声があがっていました。がむしゃらに ラグビーボールに 向かっていく子どもたちは、6年間のなかで一番素敵な顔をしていました。コーチのみなさんありがとうございました。こらからの彼らの人生の中で力になると思います。

### 「県大会お疲れ様でした」

6年生 真山 巧也 (母)

6年生の皆さん、赤チーム、紺チームともに優勝おめでとうございます。試合では対戦相手とぶつかり合いながらあきらめず少しずつゴールに近づき、最後にトライを決めるシーンが何回もあり印象的でした。皆でトライを取りに行く、という気持ちが応援側に伝わってきました。最後の赤チームの試合では、お互いがよく声掛け合っているのが良かったです。皆さんが一生懸命がんばったことが自分の自信になり、大人になっても大切な宝となることと思います。そうした体験を子供達が持つことは親にとって嬉しいことです。県大会で優勝は目指していましたが、この目の前の目標を動機付け、子供達が体現し達成感を持つことができたことは、コーチ達のご尽力が大変に大きかったことと思います。本当に有難うございました。

### 「県大会を終えて」

6年生 横島 拓朗 (母) 横島 由紀

とにかく夏の終盤から秋口、そして大会中と、今年はよく雨に降られました。幸せなことに、全天候型の日大グラウンドはよほどのことがない限り練習は継続できました。全身ずぶ濡れで練習後にグラウンドでスライディング大会が始まり、練習以上に盛り上がりを見せた姿は、まだまだ6年生といえどもかわいいやんちゃな男児という場面でした。

その同じ子どもたちが、県大会会期中にグングンと成長し、あれほどまでに大人を感動の坩堝に誘引し、魅了させてくれるとは、まさに想定外の出来事でした。繋がるパス、仲間を信じる、あきらめない、みんなで勝ち取る…そんな夢のようなことを現実に実感できた経験は、これからの困難な場面に遭遇した時、なによりにも代え難い自信と誇りになると思います。豊かな時代に生まれ育った2000年ベビーの彼らにとって、三浦校長から授与される優勝の表彰状とコーチの方々から頂いたお守りのストラップは、お金では買うことのできない仲間との心の財産になることでしょう。

子どもたちの無限大のミラクルパワーと、右も左もラグビーのルールもなにもわからず、じっとしていられない子どもたちを辛抱強く育ててくださった麻生RSの関係者の皆様に深謝いたします。ありがとうございました。

## 5年生

### 「全員でボールを動かすラグビーを」

5年チーフコーチ 曾我 浩

5年生のみなさん。

春から夏合宿に向けて練習をしてきたけど、Aブロックで、0勝4敗と結果に結びつかなくて残念でした。

でも、このままだと良くないと気づくことができたのも、「負けたおかげだ」と曾我コーチは思います。

最終戦を前にして、曾我コーチがみんなに送ったメールや、グラウンドでいろいろコーチから、「なぜ、練習に一生懸命取り組まなければならないか」気づいたことと思います。

コーチも、もう一度みんなへの指導の仕方を一生懸命考えてがんばります。

6年生になったら、「最高学年だから結果を残す」ではなく、「最高の学年を1年間送る」ことを目標に練習しよう。

そのためには、真面目に練習に取り組み、練習でないときは、思い切り楽しく遊ぼう。

みんなは、どんなチームになりたいですか？

もちろん強いチームになることが一番ですが、体の大きい子や足の速い子にボールを集めて、トライを量産しているチームもありますが、「全員でボールを動かしている」チームになったらいいなと思います。

ボールを持っている子だけでなく、ボールを持っていない子も次のプレーに備えて、いつも考えている。

試合中、パスをしたり、オーバーに入ったあとも、ボールがどこにあるのかいつも意識して、他人任せにしないでゲームに参加できている。

そんなチームになったらいいと思います。

春休みまでは、基礎的な練習が続くと思いますが、この3ヶ月をがんばって、6年生に向けて良いスタートを切りましょう。

ご父兄のみなさま。4連敗の結果でしたが、ひとつぐらい勝たせてあげるのが、コーチの役割だったと反省しています。

残念な結果でしたが、子供たちは最終戦に向けて成長しています。

前向きな気持ちがたくさんできた子供たちを、コーチ陣一同がまとまって、秋に良い結果が出せるようがんばりたいと思います。

2013年は、麻生RS生として最高の1年が送れるようがんばりますので、今後ともご支援よろしくお願ひします。

### 「最終学年に向けて」

5年サブコーチ 外岡

5年生の県大会は、強豪ひしめくAブロック(横須賀A:優勝 田園A、藤沢A、相模原)で、4戦を戦いましたが4敗でした。ただし、4試合(15分前後半)の試合を通して一方的にやられたことはなく、十分戦えた時間帯もありました。相模原戦の前半(2-1とリード)、藤沢戦の前半(接点を支配し連続攻撃)、田園戦、横須賀戦のトライ(走力あるBK陣で大外まで回しトライ)。この時間帯を増やしていけば、来年、強豪とも十分戦えると思います。

県大会通して良かったこと

- ・ 大外へ展開するアタックは、強豪相手にも通じる。
- ・ 接点も、かなり改善できた。互角は難しいが、4-6くらいは取れる？

県大会を通した課題

- ・ 「戦う」ハートが持続しない。「声」が出ない。
- ・ タックルに入れにくい。ライン・ディフェンス:前に出ない。
- ・ 接点でファイト(オーバー)し負ける。

いよいよ最終学年となります。上記のような課題を克服して、最後の県大会で結果をだすことに加え、新6年生には、「麻生ラグビースクールの最高学年」として、小学生全員を引っ張っていくことが求められます。コーチ一同も、再度、練習方法、練習への取り組み等を見直して、最後の1年に臨みます。選手の皆さんも「強い気持

ち」+「最高学年の責任」を持ち続けて練習に参加してください。

### 「みごと県大会全敗す」

5年コーチ 佐藤 満弘

組み合わせを見てビックリ、相模原、藤沢、田園、横須賀と県内有数のチーム、それもすべてA。たれが籤を引いたのやら。予感があったが全敗してしまった。相模原は前半リードも後半に逆転され、田園・横須賀は1トライのみ、藤沢は零敗。同じ5年生、BKの走力では負けていない。それなのにドウシテ。

外岡コーチが毎回、試合のあとで反省点を含めて報告をしてくれました。

ポイントがずれていくごとに減る人数。第一のポイントで(モール・ラック)で、5、6人が固まってしまうのだ。

だから展開していくと、人数がすくなくなる。相手ウイングが走ってくるのにノーマークとなってしまう。

もう一つは、ボールを持っていない選手の動きのしぶさ、スタートが遅れる。9人对7、8人になってしまうんだ。

これでは勝てない。集中力と戦う気持ち、いずれもあとチョットのところ。コーチの教え方がまずかったかも知れませんが、反省しています。米元コーチ、上田コーチが今年から参加しました。今年是不慣れな点もあったかもしれませんが、来年は思い通りにやってくれるでしょう。年寄りにはスミッコに。子供たちも県大会以後、練習に気合いが入るようになりました。6年になったら、鬼コーチ・三浦校長が担当になります。もしかしたら1月からも知れない。きびしい人なんですから。本当に。

たかがラグビー、されどラグビー、内容がよければいいとは言いながら試合には勝ちたいよな。

### 「県大会を終えて」

5年コーチ 米元 勇一郎

5年生のみんな、県大会お疲れ様でした。結果は残念だったかもしれないけど、試合を重ねていくうちに段々みんなの真剣に取り組む姿勢や諦めない姿を見る事が出来て嬉しかったです。

でも、みんな100%の力を出し切ったって言えるかな？もっと出来るよね？

みんなも気付いているかもしれないけど、真面目に一生懸命練習すれば上手になるし、勝って喜びたいなら普段の練習から真面目に一生懸命やらなければいけないとコーチは思います。もちろんコーチもまだまだ足りないと思います。もっともっとみんなと一緒に一生懸命やらなければと思っています。

来年は小学校最後の年。今のメンバーでラグビー出来るのはあと1年です。毎週日曜の午前中はラグビーの事だけ考えて、仲間とコーチと真面目に一生懸命やってみようよ！みんなが卒業する時に「ラグビーやって良かった」って思えるような1年にしようね！

### 「真面目に」「楽しく」

5年コーチ 上田

5年生のみなさん、今年は悔しい思いをしたことでしょう。

お父さん、お母さん、コーチも、同じように悔しい思いをしました。

県大会の打ち上げ会で菅原コーチから、「来年はもう少しだけ真面目に！」という目標をもらいましたね。

みんなは十分に潜在力を持っています。

来年は集大成の年です。「真面目に」「楽しく」取り組んで過程も結果も素晴らしいものにしましょう。

### 「今年の県大会」

5年 海老原翔空

今年の県大会は全敗でした。なぜ負けたか考えました。ぼくは手でタックルに行っていたのが駄目でした。そしてボールがポロポロ落ちていたのにだせなかったのだから、これからはすぐにボールを出すことを目標にしていきたいです。

あと、タックルをいっぱい練習して、菅原コーチを倒せるようにしたいです。



### 「県大会をふりかえって」

5年 小野 航大

4戦全敗はくやしい。  
ボールを回せばトライが取れることも分かった。  
全試合ボールをつないでトライが取れた。(一試合はまぼろしのトライだったが・・・)  
来年は優勝したい。  
コーチに一言「来年もSHをさせてください。」

### 「県大会で学んだこと」

5年 齋藤裕人

俺はくやしかった。県大会で全敗してしまったからだ。でも、くいは残っていない。なぜかと言うと県大会最後の大津の試合で2つ、すごくうれしいことがあったからだ。

1つは後半、みんなで一緒にトライを取ったこと。

FWがオーバーをしてボールを出して、それをSHがすぐにBKにまわして BKが相手の外を抜いてトライを取ったからだ！

もう1つはトライを取った後、取られた後に何が悪いか、何が良いかを話し合えたことだ。

話し合うことで仲間と信頼関係が増えてパスのタイミングなどがわかったからだ。俺はこの試合で色々なことを学んだ。だからこの学んだことを生かしてもっと強くなりたいと思う。

### 「県大会をふりかえって」

5年 小島稜

ぼくたちは全敗しました。ぼくはなぜ全敗してしまったのかというと、勝とうという気持ちが弱かったからだと思います。

これからは、目標を決めて、朝に勝とうという気持ちでのぞんで、低いタックルなどをしていきたいと思います。

### 「今年の目標」

5年 古田 空

今年の県大会は全敗という結果で、とても悔しかったです。

今までの三試合の中で一番良かった試合は三試合目の横須賀戦です。三試合目では、雨が降っていて地面がドロドロでした。トライを取られたときにみんなドロドロになっていても、集合してひとりひとり反省をしていたのでとてもよかったです。

来年の県大会では、優勝を目指しこれからもしんげんに練習をしていきたいです。

### 「県大会をふり返って」

5年生 津国大喬

僕の県大会の目標は、「強く低いオーバー」と「タックル」でした。

低いオーバーはよくできたと思います。ただ、ラックやモールには一番後から着いたり、低くタックルに入る事が怖くて高くなってしまいました。

来年は6年生となり最高学年になるので、そのようなことがないように、「走るときには走る！」「確実に相手をたおすことができるようなタックルをする」この二つの事を心がけて、練習に取り組んでいきたいです。

### 「悔しかった県大会」

5年 山崎太凱

ぼくは、県大会で悔しかったことはぼくが抜かれて点が入ってしまったことです。反省していることは声を出していなかったしタックル、オーバーともに低く入れなかったことです。ぼくはタックルにいても少し怖がって高くなってしまい毎回抜かれてしまいます。それから、ちょっと速くて強そうな人が来たら怖がって手で掴みに行ってしまうので抜かれて1点になってしまったこともあったので反省しています。オーバーも同じです。だからぼくはタックルやオーバーをするとき怖がらず合宿の時の6年生の人たちとの試合を思い出してもっと強く積極的に入っていきたくです。またサイドラインぎりぎりでもらったときは絶対に出さないで絶対に後ろの仲間に届けれるようにもっと頑張りたいです。反対によかったことは、1回だけだけどサイドラインぎりぎりでもらってしっかり出さずに後ろの仲間に届けることができたのでよかったです。次からはこういうサイドラインぎりぎりの時も後ろの仲間にとどけタックルとオーバーを低く入り声を出して頑張りたいです。

#### 「県大会で思ったこと」

5年 熊谷 優

ぼくは、県大会で思ったことは色々あります。まず一つは、きんちょうです。なぜかという、初戦の相模原 A とは、試合をあまりやったこともなく、戦った記おくがなかったので、きんちょうしました。けれど、前半 14-0 で勝っていました。そこできんちょう感が少しゆるんだのか、どんどんと点数を取られてしまい逆転負けをしてしまいました。これからは、どんな試合でもきんちょう感を持って、試合にいどみたいと思いました。横須賀 A との最終戦は、雨で地面がドロドロになっていて、いやだなあと思いました。あまりタックルができず、何点も取られてしまいました。試合中、けいいちろうやこうたを見るとドロドロになっていたの、ぼくもがんばらなくちゃと思いました。ぼくは、まずタックルにできるだけ行きました。そして最後には、ボールをつないで、1本のトライを相手からうばうことができました。そのときは、ものすごくうれしかったです。来年は、どんな相手だろうと勝って優勝したいと思えます。

#### 「県大会をふりかえって」

5年生 森田恵一朗

ぼくは、どの試合でもモールやラックを見すぎていてラインを見ず、ボックスにほとんど指示ができませんでした。しかも、外に回せばトライがとれた場面で、ぼくがつっこんでしまってトライがとれないことがありました。このようなことがあったために、ラインが浅かったり近かったりで、三対二の場面などもつかまってしまうました。もう一つは、指示をしたつもりでも相手が気付かない場合がありました。なせなら、ぼくの声が小さかったからです。ボックスのほとんどがラックやモールの後ろにいて、もどれと言ってももどらずに、トライされてしまうこともありました。これら二つをよりよくするため、一つ目はよく見る。二つ目は、大きな声を出すようにしたいです。

#### 「県大会」

齊藤 岳

今年の県大会は負けて悔しかった。フォワードとしての仕事を全然できなかった。悔しかったから、できるように頑張りたいです。そのために、家や練習で頑張りたいからできるようにしたいです。

## 「県大会を振り返って」

5年生 津国大喬 父 秀一

今年の県大会、全ての試合を見ることはできませんでした。子供たちの自主性が見えた、最終戦を見逃した事は特に残念でした。

試合を通じて、点を取った時には仲間と喜びを爆発させ、点を取られた時には仲間を奮い立たせるような声だしはもっともあってよいのかなと思います。特にバイスキャプテンでもあったので、感じるどころでした。

大喬は非常にまじめな子で、アドバイス貰ったことを必死にやってみようとする姿勢は常に持っていたのではないかと思います。その姿勢はこの先も持ち続けて欲しいものです。

来年はいよいよ最終学年として勝ちに拘っていく年になります。何でも言い合うことのできる仲間達と、自分たちで目標を作って臨んで欲しいと思います。

コーチの皆様、来年も厳しくも温かいご指導を宜しくお願い致します。

## 「頑張り、新6年生」

5年生 森田恵一郎の父 森田和秀

今年の県大会は、県内トップチームと真剣勝負を行う事が出来ました。

過去二回は、子供達にとって個人としてチームとしてどうにでも解釈ができる準優勝でしたが、今年はどう受け止めているのでしょうか。

確かに、一つの試練ではありましたが、精神的に強くしてくれた大会だと感じております。出来ればもう少し早く経験してもらいたかったです。

このチームが来年あのトップチームと互角に戦えるレベルになるためにはどうすれば良いかを考えますと、いかに自分の枠を乗り越えられるかではないでしょうか。枠を乗り越えると言っても、出来そうな目標を立てて、それを一つ一つ実現して行けば良いのです。

例えば、普段の練習などで今日の目標を発表して、終わった後に結果について再度発表します。個人でも、チームとしてでも良いのではないでしょか。出来なければ何ができなかったのかを考えます。小さな目標を一つ一つクリアしていけばきっと大きな力になるでしょう。

頑張り、新6年生。

4年生

## 「県大会を振り返って」

4年チーフコーチ 山本慎一

今年も、子供達のおかげで通算8勝2敗1分で2チームが優勝することが出来ました。この1年間一生懸命練習してきたことが結果となって表れてすごうれしいです。本当におめでとう！よかったね！又、チーム目標として、全員で応援、全員で勝つことを目指してきました。日によっては、試合が無く応援だけのチームもありましたが、ご父兄の皆様のご理解のおかげで一致団結することができました。ありがとうございました。

全体的には、比較的大差の試合が多く、安心して見れましたが、内容は？という課題も多く見つかりました。一つ目は、タックルですが強豪チームとはかなりレベル差があり、修正すべき点です。二つ目は、マイボールは絶対に取られない、イーブンボールは絶対に先にとる、相手ボールは絶対に取り返すといった積極性や激しさが足りません。この2点を中心に更にレベルアップをしていきたいと考えています。

来年は、9人制になり戸惑う面もあるかもしれませんが、全チーム(2チーム)優勝を目指して、“真っ向勝負”で挑みたいと思っています。期待してください。

## 「県大会について」

4年コーチ 清水翔太(A)

今年の県大会では、Aチームの指導を担当させていただきました。

このチームは「チーム・ナイン」と揶揄されるほど緊張してしまう子供達ばかりで、当初は本来の力が発揮できないことばかりでした。しかし、厳しい練習の結果、スクール内マッチを勝ち抜き、Aチームの座を勝ち取ることができました。子供達は本当によく成長してくれたと思います。

テクニカルな面に話を移しますと、夏合宿までは、チームでの約束事、基本的な動きを徹底的に練習しました。そして夏合宿以降は、その約束事の中で、彼らのやりやすい距離感で、自分たちで考え、組み立てさせました。中学年の試合は個人技で勝ってしまうことも多いのですが、比較的チームで繋いでトライを取ることができていたので、この点は非常に嬉しく思っております。

県大会ではAブロックに入り、厳しい相手ばかりでしたが、子供達はAチームに恥じないプレーを見せてくれました。特に横浜Aや藤沢Aとの試合では、接点の激しさや、チームとしての規律ある動き等、4年生としては非常に締まった試合を演じてくれたと思います。しかしながら、基本プレーと、そのスピードに関しては、練習不足が否めません。やはり、繰り返し練習し、子供達の連携を高めることが、この学年全体の課題であると感じます。

県大会期間中は、子供達の応援・送迎等、ご父母の皆様には多大なるご協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

最後にAチームの子供達へ。厳しいグループで本当によく頑張りました。決して下を向く必要はありません。君たちの経験は、Bチーム・Cチームの優勝と同等もしくはそれ以上価値のあるものです。麻生の4年生の代表として戦ったことに、誇りをもってください。悔し涙を糧にして、来年は嬉し涙を流せるよう、来年の麻生を引っ張って欲しいと思います。1年間ありがとう、これからも応援しています。

## 「県大会が終わって」

4年コーチ 田口幸吉(A)

今年の県大会で4年生は全体的に良い試合をしてくれたと感じています。細かなミスはあったものの練習の成果は十分出せたのではないかと思います。その一方ではコーチとして教えきれていない部分もあり、強豪チームとの差を感じさせられて大いに反省する大会となりました。改めて基本プレーの大切さとスピードの重要性を痛感させられショックを受けています。

来年からは5年生に向けた9人制ラグビーのスタートです。今回の県大会の教訓を活かし基本プレーとゲインラインを意識したスピードラグビーを指導出来たらと思っています。5年生になれば今より激しいプレーも求められ厳しい練習になりますが、その中でも楽しくプレーが出来る環境作りも我々コーチのミッションかなと思います。大きく成長したこの一年を上回るような来年にしたいし、心技体伴に大きく成長出来ることを願って指導したいと思います。

ファイトです、新5年生！！

## 「県大会を終えて」

4年コーチ 清水賢一(C)

四年生の関係者の皆様、県大会お疲れ様でした。そしてCチームのみんな、優勝おめでとう。

AとBに比べてブロックにも恵まれ、スクール内マッチでの敗戦でCチームでのエントリーになり過去の対戦等から見ても優勝は確実というプレッシャーの中、初戦・優勝がかかった試合の前半は緊張で重たい感じがありましたが、そのほかには子供達が描いた通りの試合運びが出来ていたように自分の目には写りました。このCチームは気持ちのやさしい子供が多く春先はタックルもオーバーも激しさが無く、ボックスにいたっては声が出せずに出たとしても小さくてパスを繋ぐなんて事がなかなか出来ずにいましたが、夏前ぐらいからその打開策としていくつかのサインをコーチと子供達で考え、FWもBKもそのサインを理解して次の動きに対応できるように全員がなり、特に試合中にこの場面はこうしようかというような子供達が会話を良くするようになった事が、秋になりチームが上向きになった原因ではないかなと自分を感じています。来年はチーム編成上2チームになり9人制になるのでチーム内の競争や新チームでの新たな挑戦が始まります。来年は2チーム優勝出来る

ように「頑張ろう」。

ご父母の皆様には、今年も二か月間、子供同様に試合の応援・送迎等に有難うございました。そのかいもあって良い成績で県大会を終ることが出来ました。来年も同様に温かいご支援の程、宜しくお願いします。

「県大会を終えて」

4年 阿部凌大(C)

ぼくが県大会で一番がんばったのは、キックです。とくに横浜Gと戦った時にキックが5回くらい入ったのでよかったです。藤沢Eと戦った時に全員がトライできたのでよかったです。来年はキックも完ぺきに入るようにしてトライもたくさんしたいです。

「タックルでたおすぞ」

4年 安藤雄也(A)

ぼくの県大会の目標は、「タックルでどんな相手でも一発でたおす」でした。でも、追いつけなかったり、たおせなかったりしました。もっとたくさん食べてパワーアップします。だけどトライができたことがうれしかったです。来年は9人制なので、もっともっとボールを追いかけて、一発でたおしたいです。

「今年の県大会」

4年 飯島亮太(B)

ぼくは昨年のはじめての県大会では、こわくてオーバーやタックルができなかったけれど、今年の夏合宿で積極的に動き、対外戦初トライを決めてから、勇気を出してプレーができるようになりました。

県大会4試合の中では、最後の田園戦が印象に残りました。優勝できてよかったです。

「県大会を振り返って…」

4年 上田武蔵(B)

今年の県大会の目標は、「優勝」でした。この目標はBチームの全員で決めました。この目標をかかげ、ぼくに出来ることはタックルでした。きちんとたおせた時もあるし、はずされた時もあるので、ぼくにとっては75点くらいです。来年は低くて一発でたおせるような、正確なタックルをしたいです。優勝については同りつだったので、目標達成か不達成かびみょうなところですよ。同りつ優勝の田園Bは、すごく強かったです。こっちがオーバーしてもすぐにジャッカルされて、なかなか攻げきがうまくいけずに、14対14で同りつ優勝でした。田園Bの攻げきは、麻生のやりかたとはちがう、めずらしい攻げきでした。あるていどフォワードですすめて、最後ボックスでトライを決めるという作戦で、こっちは必死で守るという形の勝負でした。しかしこっちもボックスで勝負をかけたので、なんとか同点の試合でした。来年は9人せいラグビーなので2チームになるのですが、9人せいになっても変わらず優勝したいです。

「県大会を振り返って」

4年 太田佳吾(A)

ぼくは、今年の県大会で去年負けた横浜Aと試合をしました。(編集注: 去年は横浜B)

前半に3本もトライをとられ、ぼくたちは1本しかとれませんでした。しかし、後半にはみんなでがんばってキック差までおいつくことができましたが、負けてしまいました。キッカーだったので、すごくやさしかったです。

また、3チームの中で他の2チームは優勝できたのに、ぼくたちのチームだけ優勝できなかったのが、来年の県大会ではキックを完ぺきにして優勝したいです。

「県大会について」

4年 奥川朝陽(C)

今年は組み合わせのお陰で、全勝することが出来ました。来年は今年と同じようにはいかないと思うので、みんなと協力して、5年は全チーム優勝したいと思います。自分は、オーバーで負けることがあったので、必ず相手ボールを獲得出来るようにしたいです。

### 「県大会」

4年 熊谷祥(C)

ぼくは、県大会で優勝しました。うれしかったです。

初戦は横浜G、相手にトライを1本決められたけど、すごい点差で勝てたのがうれしかったです。

次の相手は、藤沢F。Cチーム全員、トライをできたことがうれしかったです。しかも0点でおさえることができました。とてもうれしかったです。

最後の相手は大和Cでした。ミスが多かったけれど、0点でおさえて勝ち、優勝を決めました。すごくうれしかったです。

ぼくは、5年になっても優勝したいです。5年の県大会でもいっぱい試合に出て、いっぱいトライをできるようにしたいです。

### 「悔しかった県大会」

4年 小坂海歩(A)

横浜Aとの試合のとき、トライ数は同じでしたが、キック数で惜しくも負けてしまいました。けれども、横浜とい試合ができることがわかったので、来年の県大会では、全勝優勝したいです。もちろん、藤沢にも勝ちます。

### 「県大会」

4年 児玉将梧(B)

今年は同点優勝だったけど、来年はタックルを正確に決めて単独優勝したいです。

### 「県大会をふり返って」

4年 津国千智(B)

僕の県大会の目標は、「タックルをつねに低くいく」とこと、「オーバーを力強くいく」というものでした。

全試合出場することはできたけど、後半半分しか出ることができなかったの、目標は少ししか達成することが出来なかった。

ボールが見えたらすぐにボールの場所へ行き、低いタックルをして誰かが相手をたおしたら、すぐオーバーをしてマイボールをずっと続けていくラグビーをもう一つの目標にしたいとおもいました。

来年はしっかりと練習をして、試合で目標がたくさん達成できるようにがんばりたいです。

### 「県大会をふり返って」

4年 野田怜佑(B)

僕は県大会で初トライができて、チームも優勝できて良かったです。田園Bとの試合は、引き分けでくやしかったけど、目標としていたオーバーができました。県大会では低いタックルは全然できなかったの、来年は練習して県大会でたくさんタックルを決めたいです。

### 「県大会の感想」

4年 野村雄亮(C)

ぼくは県大会で良かったことが3つあります。

1つ目は、優勝できたことです。去年の県大会では準優勝だったので今年は絶対優勝したいと思っていました。優勝できて良かったです。

2つ目は、取られたトライが1本だけだったことです。でも横浜G戦で1本取られたので悔しかったので、来年は0本にしたいです。

3つ目は、全員トライができたことです。11月23日の藤沢E戦で全員トライして勝ちました。

部内マッチでほかのチームに負けてしまったけど、そのあとたくさん練習して声を出すようになりパスがづながらようになりました。なのでチームワークが良くなって勝てるようになったと思います。来年はもっと強いチームと戦って勝てるように練習していきたいです。

### 「県大会の感想」

4年 原田健匠(A)

僕は、県大会で優勝するのが目標だったけど、4戦中2勝2敗で3位だったので、来年の時は優勝したいです。そのためには、怖がらずにタックルに入れるようになりたいし、400メートル走を練習して体力と走力がつくように練習していきます。

来年は試合の人数も増えてきつくなると思うけど、優勝したいと思います。

### 「悔しかった横浜戦」

4年 本田昂大(A)

今回の県大会の横浜で最初は、互角でしたが、先に1本取られて相手の流れになってしまいました。でも、途中から流れを麻生に流れを向けることが出来ました。そして、みぶちゃんがトライしたときには、「相手はずでに疲れきっていた」とお母さんが言っていました。あと、ワントライ取れれば逆転勝利だったけど結局負けてしまいました。でも、ワントライまで差を縮められたので、来年の県大会では、勝てるように頑張りたいです。

### 「県大会の思い出」

4年 萬場康生(A)

ぼくは、横浜戦が1番心に残りました。前半にたくさんトライを取られてしまいましたが、前半の最後にトライをとって、後半麻生のながれに乗れてよかったです。結果は、4点差で負けてしまいましたが、前半の初めにトライをとれば麻生のペースになることが分かりました。藤沢は、タックルや準備が速いので、僕もそこをなおして次の県大会では勝ちたいです。

### 「県大会の思い出」

4年 山内太朗(C)

試合でタックルミスなど失敗しちゃった時もあったけど、優勝して嬉しいです。

全試合、トライを決めることが目標でした。それを達成でき、みんなにもほめられて嬉しかったです。藤沢戦の時に、Cチーム全員がトライを決められてすごく嬉しかったです。とってもいいチームでした。

大和がタックルが強く藤沢はスピードがすごくて横浜はボールを持ったら止まらないというのがすごかったです。

### 「県大会、優勝！」

4年 横尾瑛(C)

辛い夏合宿の練習、真剣に練習に取り組んだ結果、Cチームは全勝優勝ができてよかったです。

このCチームで優勝できた事がうれしかったです。

5年生になったら強いチームに勝てるように、練習→夏合宿を一生懸命頑張りたいです。

「感謝しています」

4年 津国千智 父 秀一

昨年の県大会終了後から、かずとしが首の異常を訴え一年間もの間、練習をすることが出来ませんでした。その間もコーチの方々には、常に気にかけていただき大変感謝しています。

一年間仲間として、一緒に練習することができずにいた、かずとしを温かく迎え入れてくれた仲間たちにも感謝しています。

特に10月7日の深沢グラウンドで、後半に出場させていただいた時には、4年生の皆から「かずとし頑張れ～」と声をかけて貰った事に思わず、目頭が熱くなりました。

この休んでいる1年間を通じて千智のラグビーを思う気持ちが強いことも分かりました。

今後ご指導を宜しくお願いします。

## 3年生



左段上から 都留光平 ・京屋洗琉 ・河瀬孔太郎 ・萩原起 ・海老原銀次 ・坂脇優来 ・小高佑 ・村松京弥 ・都留茉奈実  
下段から 竹川正剛 ・神下弘太郎 ・原田太陽 ・宮澤樹 ・濱田昂輝 ・無田快 ・中島知己

### 県大会を振り返って

3年 チーフコーチ 濱田正行

今年、3年生は初めての県大会に挑みました。

厳しく楽しかった夏合宿を経て、準備万端とまで行きませんが去年よりは格段に上達したチームになっています。

しかし、結果としてはAチーム0勝4敗、Bチーム1勝1敗1引分となり、3年生としては1勝5敗1分けと言う結果。

反省点は沢山あります。指導方法の問題も当然あると思いますが子供達は練習の成果が出し切れていないと感じています。

練習では出来ているのに試合では・・・と言うような歯がゆい場面も見られました。

それでも試合を重ねるうちに全員が果敢に相手を止める姿も見られ、練習したパスも繋がりが、声を出して仲間に指示するところも多く見られ、今後を期待させてくれる場面を何度も見られました。

また、県大会を通して飛躍的に上達した子供達が沢山います。

みんな一生懸命に戦いましたが結果だけを見ると子供達はきっと悔しかったと思います。

コーチ陣も勝たせたい一心で一緒に練習して来ましたが力不足を痛感した県大会となりました。

でも、3年生はまだまだこれからです。勝ち負けも重要ですがラグビーを好きになってもらう必要があります。

その中で上手になりたい、強くなりたいと思える練習や環境をコーチ、父兄と一緒に考えて行きたいと思っています。

コーチ・父兄の皆様！今後共、ご協力をお願いします。

### 県大会を振り返って

3年サブチーフコーチ 野田卓人

3年生のみんな、県大会お疲れさまでした。試合の結果は満足いくものではなかったかも知れませんが、両チームとも精一杯頑張りました。

Aチームは藤沢Aとの試合で、素晴らしい試合を見せてくれました。前半は相手チームにトライを6本とられ苦戦しましたが、後半は1本トライが決まってから、みんな今までで一番良いプレーを見せてくれ、5本トライを取り返しました。



Bチームは田園との試合で個人の技量をきっちりと発揮してくれたのに加え、常にボールキャリアの後ろに二人、三人とフォローに入って繋ぐラグビーが出来ていました。

県大会を経験することにより、両チームとも試合中にチームメンバーでコミュニケーションをとって相手チームへのアジャストが出来るまでになりました。

来年もいっぱい練習して強く、上手くなろう。

保護者の皆さま、いつもサポート、応援ありがとうございます。新年度も子供たちに思いっきりラグビーを楽しんでもらえるように頑張っていくので引き続きご支援よろしくお願いします。

## 県大会

3年生コーチ 飯島 盛二

この11ヶ月間を振り返り3年生の成長に驚かすにはいられない。

正直、引き受けたときは、どうしたものかと頭を抱え込まざるを得なかったが、子供たちのみならず、ご父兄、コーチ陣の努力、スクールの支援により、戦える集団に育ったことは嬉しい。

一方で反省すべき点も幾つかあり、2点あげるとすれば、厳しく指導することが先行し、楽しくプレーする時間が少なかったという点。

もう1点は、かなり指導過多気味となり、子供たちがプレーの意味を主体的に考える機会(余裕)が少なかったという点である。

子供たちがグラウンドで自主的に相談し合う光景は何とも言えず感動的である。

来年は、「プレーを楽しく考える子供たち」、「ラグビーを通して物事を考える癖をつける子供たち」を多く見たいと思っている。

## 再びの、コーチの出来る事、或いはやるべき事

3年生コーチ 斎川 宏

3年生は初めての「県大会」、目標は優勝。

春季号のラグーマン原稿の冒頭です。結果、3年生Aチームは0勝4敗。

田園A、横浜A、藤沢A、相模原Aとの厳しいブロックには入ったとはいえ、2戦目までは完敗でした。ひとえに、私の認識の甘さからの準備不足です。「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」今更ながらの孫子の兵法が、脳内でガラーン、ゴローンと鳴り響き、仕事の手がつかない10月11月を過ごしました。

Aチームは力を出し切ったとまでは言えませんが、3戦目の後半の追い上げは見事でした。

初トライには涙が零れそうになりました。チームにとっても知己にとっても凄く重要なトライでした。4戦目は一方的なスコアになりましたが、1、2戦に比べて格段に戦う姿勢が見てとれました。君たちは本当に頑張りました。

技術的に足りなかったことや、消化しきれなかったことは、多少はあったとは思いますが、他スクールと比べてもそれ程の遜色はなかったと思います。勿論、試合結果を鑑みれば、相手チームのプレー一つひとつの強さに圧倒されたのは事実です。自分たちにも技術がない訳ではないのに、相手の技術に圧倒される。これはどういう事だ！（練習の成果を如何に試合で発揮できるか）経験に基づいた「実践力」を身に付けさせて上げられなかったと反省しています。

しかし、「スクールのコーチとして」の私の一番の反省は、子供たちがグラウンドで成す術がない状況に陥った時に有効な、的確な、実践可能な、具体的な指示を明確に出せなかった事に尽きます。負の事象を想定しての対処準備は必要不可欠。不足していました。

子供たちが4年生に成長するように私も単に年齢を重ねるのではなく、「コーチ」としての成長がなければ、彼等と併に進級する資格はないと自戒しています。

## はじめての県大会

3年 宮澤 樹

三年生になってはじめて県大会に出ました。

1 試合目は田園とたたかいました。田園は、キックがうまくて、足も速くて、おいつけませんでした。

2 試合目は横浜とたたかいました。この試合も、1人にしたり、タックルに入れなかったので、負けてしまいました。

3 試合目は藤沢とたたかいました。この試合は前半からみんなが力を合わせて、トライができました。後半もできました。でも33-53で負けてしまいました。

4 試合目は相模原とたたかいました。この試合で全員めかかれてピンチの時、ゴール前でぼくがタックルをして、ラックになったけど、オーバーで負けて、トライされた場面もありました。

全試合負けてたので、くやしかったです。来年は全勝優勝したいです。

## はじめての県大会

三年 海老原銀次

県大会で出来た事はタックルです。声は全然だせなかったです。声をもっと出せたら県大会で優勝できたと思います。

今度の県大会では声をだして、優勝したいです。

## 県大会

3年生 中島 知己

ぼくのチームは、負けたけど、いい試合ができてうれしいです。

田園や相模原のチームみたいになって、4年生になっても5年生になっても、がんばって全勝したいです。

藤沢戦は、いい試合をしたけれど、負けました。

ぼくたちのチームは、れんしゅうをつみかさねて、4年生5年生になっても、がんばって勝ちたいです。

## はじめての県大会

3年 原田太陽

今年のはじめての県大会でした。さんねんながら全ぱいしてしまいました。

タックルやオーバー、それからパス。タックルをもっとして相手の点数をおさえる。オーバーをしてモール・ラックのボールを自分のチームのものにする。強力なパスで相手にボールをとられないようにする。

この注意点に気をつけて、そして『こくふく』して来年はぜっ対に県大会ゆう勝！

全然だめだった。

3年 無田 快

全然だめだった。

相手の方が足も速かったしタックルも強かった。

自分は真剣に追いかけていない時があった。

タックルも思いきり出来ていなかった。

これからはもっと本気を出して練習も試合も真剣勝負でやる。

## 「くやしかった県大会」

3年 小高 佑

ぼくは、県大会でこう思いました。まず、一試合目でどうなるかなと思いました。結果はどう点。くやしかった。二試合目の試合はかてたのでうれしかったです。三試合目はまけたのでとてもくやしかったです。これからは試合でまけないように練習をがんばります。

## 「あと一步だったのに」

3年生 萩原 起

ぼくはけん大会で、さいしゅうせんのYCIにかてば横すかと同時ゆうしょうだったけど、YCIに負ければ3位になるから、ぜったいに負けたくないし合だったけどYCIに負けて3位になってしまいました。

ぼくのけん大会の目ひょうは、タックルをすることだったけど、けん大会ではタックルができなかったのもっといっぱい練習して、来年のけん大会ではタックルもして、ゆうしょうしたいです。

## 県大会

3年生 京屋 光琉

最後の試合、かぜをひいていて途中までしかでられなかったし、試合にも負けたので、くやしかったです。

試合中、大きな声を出せたのは良かったです。

来年は頑張って勝ちたいです。

## 県大会の反省と来年の目標

三年 坂脇 優来

私は県大会で四試合しました。そのうち、一試合が負けてしまったので、くやしかったです。

来年は絶対に勝ちたいです。だから、あまり出せていなかった声を出して、もっと上手になりたい、タックルをたくさん練習する。

しっかりとなか間がとれるパスを出すようにして、県大会以外でもしっかり練習をした事を、生かして県大会で出来るようにしたいです。

そして、来年の県大会では、いいゲームをして、絶対に優勝したいです。

## けん大会

3年 都留 茉奈実

わたしは、二試合目がよかったな、おしかったなと思います。

理由は、後半にともきがトライしたら、それまで元気が無く半分あきらめかけていたチームがいきなり元気になったからです。おしかったなと思うのは、前半もあんなプレーができて、勝てていたらなあと思うからです。

でも昼食のときは、みんなしあわせそうな顔をする事が出来たのでよかったです。

はんせい点は、仲間を一人にしないということです。あとでコーチが仲間を一人にしたら勝てないといっていたときは本当にそうだなと思いました。

## けん大会

3年 都留 光平

けん大会のはんせい点は、三つあります。一つ目は、キックオフのボールをノーバウンドでとることができなかったことです。二つ目は、パスをもっとつなげられればよかったということです。三つ目は、タックルをもっときめられたらよかったということです。

でもできたことがありました。それはトライです。第2戦で両チーム通してさいしょにとることができました。

竹川コーチにコロコロを見のがすなと言われました。そしたら本当にコロコロボールでトライをとれました。

次のけん大会では、コンバージョンをきめたいです。

## 県大会

3年 竹川 正剛

ラグビーを始めて7年。はじめての県大会。

ポジションはスタンドオフ

今年の県大会は三試合0点Aチームなのになさけなくてくやしかった。

でも1しあいは点をとれたけどぼくはトライができなかった。

2つだけできたことは声をかけたこととキックを正かくにきめたこと、それだけしかできなかった。

しれいとうなのになさけなかった。

タックルは1本くらいしかできなかった。

さがみはらの14番は低いタックルでも止められなかった。

4年生になったら、強いタックル、いいパス、いいオーバー、いいキックができるように練習してなかまを1人にしないように全力で走ります。

## 県大会

3年 濱田 昂輝

今年の県大会は、全部負けてしまったので、来年は練習をたくさんして、県大会でゆう勝したいです。

負けた原因は、自分が相手にタックルすることができなかったこととトライができなかったことだと思うので、タックルの練習を本気でがんばっていきたいです。

## 「初めての県大会」

3年生 河瀬 孔太郎

僕が出た3試合、全部負けてしまってくやしいです。藤沢との試合は勝ちたかったです。どのチームも強いなあと思いました。来年は頑張りたいです。

## 県大会

佑の父 小高 聡

県大会お疲れ様でした。子供たちのプレーはまさしくラグビーでした。

これが一番うれしかったことです。

結果は結果として受け止めなければなりません、ミルキーではなく公式戦最低学年としては、6年優勝に向けて良い一歩になったと思います。

佑も、もやもやが吹っ切れて思い切ってプレーできていたと思います。

親としては物足りない点多々ありますが、家庭では気持ちを鍛えますので、コーチの皆様、練習では遠慮なくビシビシとお願いします。今後ともよろしくお願いします。

## 「くやしきバネに」

3年生 萩原 起の母 信子

「投げてパスしてる！」「ライン作ってる！」「ラグビーっぽくなってるよ〜！」と試合を見るたびに結果はさておき、本物のラグビーに近付いてきたことに感動していました。何よりつなぐプレーができたことが大きな成長だったと思いました。

結果だけみれば県大会は残念な結果ですが、前とは違う自分の役割を意識した、全員でつなぐラグビーに向かっていると思います。きっとくやしさをバネにステップアップしてくれることでしょう。

私には応援することしかできませんが、なるべく褒めて褒めて気持ちのフォローをして成長を見守りたいと思います。

コーチの皆様、いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2年生



(前列左から)芝田好輝くん、高橋遼成くん、實方勇人くん、菅田光真くん、  
畑佐健太郎くん、乙地優二郎くん、石野創太郎くん、佐藤祐太郎くん、卯月快杜くん、  
佐藤仁紀くん、土方将嗣くん、原田康誠くん(後列左から)芝田コーチ、津国コーチ、  
原田コーチ、菅田コーチ、伊藤チーフコーチ、金コーチ  
ご父兄の皆さんと



## 「ミルキー大会を終えて」

2年生チーフコーチ 伊藤 信一

ミルキー最後の学年となる2年生、ミルキー大会はみんな楽しかったかい？面白かったかい？悔しかったかい？

コーチはすっぱー悔しいです！君たちを上手くレベルアップさせてあげられずに勝たせてあげられなかった事、この1年間何やって来たんだらう、みんなに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

春季交流大会では4戦全敗、他の練習試合でも負け越してしまい。残念ながら思い通りの結果が残せませんでした。昨年と比べれば遅く成長してきた子供達ですが、それ以上に他のスクールの成長振りには驚かされました。今まで通用したことが効かなくなったのです。この点は子供達も気がついていないはず、個人から組織(チーム)へ、この時期のぶつかる壁ですね。

あと1ヶ月もすれば新3年生(7人制)となり、夏合宿、県大会も始まります。勝つ事が全てではありませんが、今以上に勝ちに拘り、集中し真剣に練習をしていきましょう！そして、もっとラグビーを好きになりましょう！

御父兄、コーチの皆さん、引き続きサポートのほど宜しくお願い致します。

## 「ナイスプレー！」

2年コーチ 菅田 光平

私の今年のコーチとしての目標は、

「みんなが大きな声ではっきりとあいさつができるようになる！」でした。

できましたか？ちゃんとあいさつできましたか？「ハイ！」ちゃんと返事ができますか？

小学校にもラグビーにもたいぶ慣れ、はっきりと個性が出てきた2年生。年長さんからずっと一緒にラグビーをしてきて、コーチとして一緒に活動できる最後の1年でした。

思い返せば、みんなびっくりするくらいたくましく強いラグーマンになりましたね！でもまだまだどんどん強く、たくましく、かっこよくなれます！あいさつもちゃんとできると「かっこいい！」

あと今年を振り返って思うことは、試合中に声を掛け合うことがなかなかできませんでしたね。みんなは15人のチームです。これから仲間をふやして、ずっとみんな「ナイスプレー！」声を掛け合っていきましょう！

1年間ありがとうございました！

## 秋の交流戦を終えて

2年生コーチ:原田 泰治

早いもので、今年も残すところ一ヶ月を切ってしまいました。

毎年この時期は、3年生以上であれば秋の県大会を終えて一息つきながら県大会を振り返っている時期かと思えます。

2年生に関しては、県大会という枠組みではありませんが、来年から始まる県大会を見据え、

交流試合を通じて自分たちの力を試す絶好の機会であったと思えます。

今年の2年生はスピードのある子が多く、ボールのつながりが上手く行った際にはいとも簡単にトライが取れる反面、ブレイクダウンでは劣勢に回る事が多く、秋の交流戦は厳しい試合が幾つか有りました。

これは明らかにコーチの責任であり、自分自身の指導方法、指導内容を見直す良い機会となりました。

子供たちもこの厳しい試合(特に大和RS戦)は悔しかったようで、最近は『オーバー』を意識する子も多く、とても頼もしく思っております。

来年はいよいよ県大会が始まりますが、まずは安全を第一に考えながらでコーチ共々粘り強く課題の克服に向けて取り組んでいきたいと思えます。

引き続き、麻生RS最大の強みであります『三位一体』でのご支援、ご協力の程、宜しくお願い致します。

「たくさん、できたよ。ぼくのタックル！」

2年生 くす元 じゅん

ぼくは、いつも し合で たくさん タックルが、できたら みんなの やくに立てるから すきです。  
1回のし合で 5回はタックルが、できます。でも、たくさんトライができないことが、イヤです。  
3年生になったら、タックルとか、トライとか できて、声も出せるようになりたいです。  
合しゆくでは、なか間と 一しよに れんしゅうが できることが、たのしみです。  
これからも、よろしくおねがいします。

「タックルがんばるぞ」

2年 畑佐 健太郎

相手を怖がらず、ちゃんとタックルできるように練習します。ハイタックルにならないようがんばります。  
最初はうまくできなかつたけど、だんだんうまくなってきて、ラグビーが好きになりました。

「がんばったこと」

2年生 うづきかいと

ミルクィ大会がんばったことは、タックルです。来年は、けん大会なのでオーバーのれんしゅうをがんばりたいです。

「ミルクィ大会」

2年 佐藤祐太郎

でんえんのしあいのとき、まけたけどつぎはかちたいです。ミルクィのときタックルがいっぱいできてうれしかったです。

「頑張るぞ」

2年 土方将嗣

ダウンオーバーができるようになった。3年生になっても大きな声を出してがんばるぞ！

「ミルクィで頑張ったこと、気を付けたこと」

2年生 石野創太郎

練習で頑張ったことは 400m 走。嫌になることもあるけどタイムを縮めることができるのは気持ちいい。試合で気を付けたのはノックオン。でもその後に(三菱重工相模原グラウンドで飲んだ)豚汁はおいしかった。

「来年は勝ちたい」

二年 高橋遼成

ぼくはミルクィ大会の試合どれも楽しかったです。でもぼくはソニービルウィリアムズというせんしゅが好きでソニービルみたいに正確なパスがしたいけど、できなかった。  
だから3年生になったらぼくもがんばるから、みんながついてきてうけとって、みんなが正確なパスができたらいいなおもいます。  
あとぜったいやまととぐりーんに勝ちたいです。

「ミルクィ大会について」

2年 奥川煌星

今年は交流大会などあまり出ることが出来ませんでした。普段の練習では、最初と最後に走る400m走で、1年生のころに比べて、疲れなくて最後まで走れるようになりました。  
3年生になったら、いっぱいタックルして相手を倒して、トライも取って、優勝したいと思います。

### 「今年のこうりゅうせん」

2年 齋川 春朗

ぼくは今年こうりゅうせんではがんばったことは、トライとタックルです。らい年がんばることはオーバーです。けん大会はウイングでボールを持っていっぱい走りたいたいです。

### 「がんばったこと。がんばりたいこと。」

2年 菅田 光真

今年がんばったことは、リコーのトーナメントで、トライとタックルをがんばりました。来年がんばりたいことは、タックルをひくくして、トライをたくさんしたいです。400m走は、1分50秒をきることです。

### 「オーバーができるようになった」

2年 原田こうせい

ぼくのミルキーのかんそうはしあいでオーバーができるようになったことです。オーバーがしあいでつかえるようになったらはやくトライがとれるようになりました。今年は大和にかてなかったけど、来年はかちたいと思います。

### 「がんばりたいこと」

2年生 さね方 はや人

ぼくが、がんばりたいことは、タックルとトライです。なぜかというトライとタックルは、あまりやったことがないからです。あと一つのねがいごとは、もっと足が早くなりたいです。早ければきっとトライもタックルもできるようになると思うからです。もっといっしょうけんめいれんしゅうして、トライとタックルをたくさんできるようにがんばります。

### 「たくましくなりました」

2年生 楠元 隼の父

2歳から始めて、早いもので、もう6年目になりました。あんなに広く見えた、日大稲城のグラウンド。それが、今では、400m×2周の競争を先頭グループで走れるようになりました。試合では、体の大きな選手にも、必死の形相でタックル！うまいかなかったり、試合に負けると、すぐに悔し涙の隼ですが、すっかり、たくましくなりました。コーチのみなさま、それから、なかまのみなさん、これからも、どうぞよろしくお願いします。

### 「ラグビーを通じて成長したこと」

2年生 畑佐健太郎の母 畑佐順子

息子がラグビーを始めたのは一年生の夏。最初の頃は試合でも、ただ自分がトライしたいと言う気持ちが強く、仲間同士でボールを奪い合う姿もよく見られました。それが一年を過ぎた今、周りを見てパスを回す、声を掛け合う、自分が出ない試合でも仲間の応援をするなど、チームとしての意識とラグビーというスポーツへの理解が高まってきたように思います。

対外試合、交流試合では、初めて対戦する相手にも積極的にタックルに行き、負けそうな試合では「もう一本とるぞ！」と言った息子の姿にたくましさを感じました。一年前のボール遊びから、ずいぶんラグビーらしく変わってきたなと思いながら、日々、応援しています。

技術面ではまだまだな二年生チームですが、それぞれに目標を持って、三年生からの県大会に向けてがんばってほしいと思います。



### 「ミルクィ大会」

2年佐藤祐太郎母、佐藤成江

麻生ラグビーコーチの皆様の厳しくも温かいご指導にいつも感謝しています。ありがとうございます。  
やんちゃで落ち着きがない子がたくさんいる2年生…でも試合はみんな顔つきが変わり、たくさんいい試合を見ることができました。相手に何度でもタックルし、ボールもよくつなげるようになりました。  
でも相手チームもどんどん上手くなってます。大きくて強い相手にも負けない気持ちを持って欲しいと思ってます。

来年からはいよいよ県大会ですね。どんな試合をしてくれるのか楽しみです。

### 「成長を感じます」

2年 土方将嗣の父 土方 隆

2年生前半の将嗣のプレーは、試合中なかなか相手のボールを奪う事ができず、どちらかというと消極的なプレーが目立っていましたが、2年生も後半になりますと、みんながボールを奪い合っている中に積極的に突進していく姿が目立ち、とても成長を感じました。

特に相手に囲まれてもダウンボールでパスをつないだり、大きな声を出して指示を出し合っているところなど、チームワークを意識したプレーが最近では多くなってきたように感じます。

これからもラグビーという団体競技を通して肉体的にも精神的にも成長してくれたらなと願っています。

コーチ及び父兄の皆様、1年間ご指導ありがとうございました。これからもよろしく願います。

### 「破天荒なラグーマン 祝ミルクィ卒業」

2年生 石野創太郎の父 石野容資

平素より熱心にご指導いただいておりますスタッフ、コーチの皆様、大変ありがとうございます。年が明けると麻生ラグビースクールでは新3年生となり、いよいよミルクィ卒業。これまで以上に、技術面、戦術面求められるレベルが上がってくるでしょう。

1年生から対外試合を見てきましたが、ボールが繋がらない、ボールをお手玉したり、仲間同士でボールを奪い合ったり、ラインでディフェンスしない等、組織的なプレーより個人プレーが目立ちます。結果的に、試合になると相手チームとの得点差となって表れるのかなと思いました。

一部のラグビースクールでは、積極的に技術指導をしているのかもしれませんが、しかし、麻生ラグビースクールでは、土台となる体力づくり、基本の徹底に時間を割いているような気がします。

麻生ラグビースクールの新3年生チームは、まだまだ未完成のチーム。人の言うことを聞かないのは自分を持っている証拠。いつまでも遊んでいるのも元気な証拠。自己主張が強いのは負けん気が強い証拠。走力&スタミナは間違いなくナンバー1。いずれは大きく羽ばたくことを期待しています。

これからも、破天荒なラグーマンの成長を見守っていきたいと思います。

## 1年生



(1列目左から)佐々木成己・野田航佑・中原侑温・真輝弟(幼稚園)・河合真輝・川原稜平  
(2列目左から)小坂龍平・佐藤凜空・大原琉来  
(3列目左から)大原コーチ・真輝パパ・稜平パパ  
(挿入写真) 本田翔太郎・高谷侑輝

### 交流戦を振り返って

1年チーフコーチ 大坪 功

秋からの交流戦では、9月17日の大和戦・11月11日のグリーン戦・11月24日の田園戦と5戦全勝と順調にきました。

週1回しかない貴重な練習なのに更に空いてしまう事もあり、ラグビーの感覚が失われてしまう状況は否めませんでした。ですので、春先から基礎の反復に徹してじっくりと同じことだけを集中して叩き込むようにしてきました。

その甲斐あってか、力強いタックルがだいぶ出来るようになってきました。負けん気が強い子供が多いので、1対1のメニューなんかも闘争心を掻き立てながら、その真剣勝負を楽しんで集中して取り組んでくれました。毎週日曜日の練習を楽しみに前向きに参加してくれたからこそ掴めた勝利であり成長です。本当に嬉しい限りです。

来年は、更にステップアップ出来るよう、またラグビーをもっと好きになってもらえるよう、練習メニューをコーチ皆で練り直したいと思います。更に気を引き締めて邁進出来るよう頑張ります！

ただ一つ気掛かりなのは部員数が少ない事です。現在部員は10名でカツカツすぎるので、皆さま引き続き新入生勧誘にもご協力お願い致します。

### 交流戦を振り返って

1年サブチーフ 大原広生

この年代は年少の時から見させて頂いてますが、この一年は本当に遅くなったと感じます。去年までは試合になっても甘えた感じがあったのですが、今年はみんな必死にボールに食い付き、タックルするようになりました。  
(普段の練習のときはまだまだふざけて怒られてばかりですが…)  
彼らのこれからの成長がとても楽しみです

### すごい集中力

1年コーチ 原田泰一

幸先の良い秋の交流戦全勝に華やかなチームの前途が想像されます。10名みんなが明るくわんぱくで、ラグビーをやるには今後がすごく楽しみです。そして何より、子供たちに感服させられるのは試合での『集中力』のすごさです。練習中、しかも試合前のウォーミングアップの時さえ、元気さを持って余し、ふざけじゃれ合うシーンがしばしばあるなか、試合のホイッスルと同時に目つきが変わる子供たち。練習以上のことは試合では出来ないとよく言いますが、試合本番で潜在能力が引き出された瞬間を何度も見た気がします。今のところは常勝街道、いつか壁にぶつかる時もあると思いますが『本番での集中力』は強い支えとなります。これに加え、反復練習による基礎の体得があれば大丈夫、きっと乗り越えていけるでしょう。今後も微力ながら子供たちの成長を見守っていきたいと思います

### 交流戦を振り返って

1年 大原琉来

今年は試合でたくさんトライがとれてよかった。来年はもっとたくさんトライをとって、もっとタックルをがんばる。

### ラグビー

1年 河合真輝

もっとたくさんれんしゅうして、たくさんトライがとれるようがんばる。

### ラグビーをはじめて

1年 川原稜平

ぼくは、なつ休みからラグビーをはじめた。ラグビーは、おにいちゃんがやっているからぼくもやろうと思ってはじめた。ラグビーは、たのしいときもきびしいときもある。はじめは、400メートルトラックを1しゅうはしれなかったけど、いまは1しゅうはしれるようになったからうれしい。

このまえのエスコートキッズはさいしょ、ドキドキしていたけど、なれたらせんしゅうの手が大きくてかっこいいなどおもった。でんえんとのしあいでは、がんばろうとおもってやったら、かてたからうれしかった。ラグビーのともだちといっしょにこれからもがんばろうとおもった。

### しあいでかったよ

1年 小坂龍平

しあいでかったけど、もうちょっとトライできたらいいな  
キッズエスコートで、せんしゅうと手をつなげてよかった

交流戦を振り返って

1年 佐々木成巳

幼稚園の時にはあまりできなかったタックルが1年生になっていっぱいできるようになってうれしかった。来年はもっといっぱいタックルできるようにがんばりたいです。

トライをもっと取りたい

1年 佐藤凜空

タックルで守るのはけっこう得意になったけど、2年生になったらトライを1試合に1回とれるようになりたい。もっと力を強くて倒されないようになりたい。

交流戦を振り返って

1年 高谷侑輝

試合では、タックルを頑張ってトライ出来るように頑張りたい

みんなががんばった楽しい試合

1年 中原侑温

一番印象に残っている試合は？ 田園との試合

なぜ？ 強いチームに勝てたから

ほかは？ 花道ができて楽しかった

田園戦を振り返って

1年 野田航佑

田園は強かったけど、みんなでモールで押し込んでトライをしたりして、勝ててよかったです。来年も勝つぞ！！

交流戦を振り返って

1年 本田翔太郎

グリーンラグビースクールの一年生と一緒に練習して楽しかったです。

二年生になったらもっと頑張りたいです。

交流戦を振り返って

1年生 佐々木成巳 父

ニッパツ三ツ沢競技場でのトップイーストの前座試合。日頃練習している組織的なディフェンスからのターンオーバー、パスをつないでのトライなど良いプレーが随所に見られました。子供達もあのような環境でプレーができゲームを楽しんでいたようでした。コーチの皆さんのおかげで子供達もラグビーを楽しく上達することができております。子供達がラグビーをつづけていけるよう引き続き厳しく楽しく指導していただきたいと思います。

秋の交流戦を終えて

1年生 野田航佑 母

1年のみんな、秋の交流戦での大活躍すばらしかったですね。

練習ではいつも大坪コーチのやさしさに甘えてばかりで、熱心に練習しているようには見えなかったのですが……。大和戦、田園戦では、みんなでモールで押し込んでのトライ！いつ、覚えた？？？こんなにすごいこと出来るようになったんだ！！とびっくりしました。本当にチームワークもいいし、すばらしいチームだと思います。

さらなる、活躍を期待しています！

## 交流戦を振り返って

1年生 本田翔太郎 母

グリーンラグビースクールさんとの合同練習では、いつもとは違う雰囲気の中、子供達も少し緊張しながら充実した練習をし、その後試合をしましたが、途中雨が降る中集中力を切らさず、麻生RSの子供達は全力でプレーをし全勝しました。

応援する子供達も一生懸命応援し、小学生になり成長した部分もかいま見え感心致しました  
グリーンラグビースクール1年生の仲間と、とても素晴らしい交流が出来たと思います。  
2年生になっても明るく元気に頑張ってもらいたいです。

## 幼稚園



## 子供たちと触れ合って

幼稚園コーチ 河合 淳一

今年一年お世話になりました。

毎年感じる事ですが、子供たちと触れ合って皆が元気に、前向きに、楽しくラグビーを通じて繋がりが合えた事、今年も貴重な体験をさせていただきました。子供たち一人一人が目に見えて成長していく過程を傍から見る事ができて、本当に楽しくコーチをさせていただいています。

これからもラグビーを通じて子供たちが、運動の楽しさ、お友達の大事さを実感して欲しいと思います。各ご家庭におかれましても、今年一年の子供たちの頑張りを褒めてあげてください。

## 今年1年間を振り返って

幼稚園コーチ 太田 昌彦

今年もまた、幼稚園コーチとして1年間、主に練習を担当させて頂きましたが、同じ学年を繰り返し教えると、本当に気付くことも多いです。特に幼稚園は、楽しいことは一生懸命やる、楽しくないことはやらない、このGAP

が非常に大きな学年です。だからこそ、我々コーチは、楽しく成長させる事をもっともっと追究しなければならぬと感じています。私もまた、子供たちとともに楽しく成長できるよう微力ながらがんばりたいと思います。来年もどうぞ宜しくお願いします。

麻生ラグビースクールを背負って頑張れ！！ミルキーラガーマン！！

幼稚園コーチ 牧野 義之

この1年を通じて、幼稚園のミルキーラガーマンたちは、自分なりにラグビーをなんとなく楽しめるようになったと思います。はじめは、練習を嫌がっていたり、草むしりや虫追っかけにばかり目を向けていた子供たちも、秋深まるころには試合でパスをつないで「トライ！」をしたり、小さいからだで激しく「タックル」するまでに成長していました。これから、小学生に進級する年長さんは、より一層しっかりと練習を積んでいくことと思います。また、年中・年少さんも、さらに次の1年で成長することと思います。しかし、少し心配なことは、ミルキーチームの生徒数です。是非この素晴らしいラグビーの体験を多くのお子さんに経験させたいと思います。ご父母の皆様、是非生徒勧誘にご協力お願いいたします。

ようちえんのみんなへ ことは、みんなよくがんばりました。パスもタックルもとてもうまくなりました。らいねんも、たくさんラグビーをしにきてください。

幼クラスコーチとして想う事

幼コーチ1年目・千秋 杉雄

今春、次男(幼年中)の勇都(はやと)の入校を機に幼クラスコーチを引き受けさせていただきました千秋です。日頃より保護者の皆様、コーチ陣にはお世話になっております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ラグビー競技人口の減少が叫ばれる中、サッカーや野球ではなくこのラグビーという素晴らしいスポーツに縁あって出逢った子供達の本当に最初の第一歩を共にする事が出来、嬉しくもあり、またその重大性(責任)に関して考える日々です。

ラグビーキャリアを歩み始めたばかりの子供達には、とにかく好印象を植え付けたく(笑)「ラグビーって楽しいな」「日曜日が待ち遠しい」と感じてもらいたいと切に願っています。

新米コーチの私見ですが、技術的な事はもっと後からで良いと思いますし今はケガ未然防止が何より最優先で、コンタクトプレーを極力排除した「手でボールを扱うサッカーのようなパスゲーム」という位置付けにしたいと思っています。

ボールを持てばまず相手に当たるという指向は、いったん脇においてあくまでスペースとギャップを見つけ走る。相手に捕まる前にパスしたそのボールを受けなおす為にフォロー伴走する、というプレー選択を意識してもらいたいのですが、これがなかなか・・・。  
(小学校の体育学習指導要領の中に接触プレーを排除したタグラグビーが昨年採用されたのは正に朗報でしたね！)

それと、全く勝敗にこだわっていません。それは県大会に参加する小3からでOKです。低学年迄は「体躯が大きい」「走力がある」の2点だけで残念ながらトライまで結びついてしまいます。身体能力に秀でただけの独走トライの応酬には全然興味がありません。

それよりも一人ひとりが意図したプレーを試み、失敗しても出来た瞬間に立ち会える、というのは何物にも替え難い喜びです。子供達の自信につながり、経験が蓄積されれば、まさにコーチ冥利に尽きます。

子供達のラグビーキャリアにおいて、初スタメンや初トライだけでなく初インゴールノックオンや初逆走トライ（・・・それは全力疾走のキャリアバックだ。残念ながら。前後半でコートチェンジする事が既にハードル高し！）などなどこれからも色々な「初〇〇」を経験する事でしょう。  
楽しみだぁぁー！！

#### 伝えたい事

幼稚園コーチ 吉田 大輔

幼稚園クラスの子供たちには、今後大きくなっていく過程で本当に熱中できる物を見つけてもらいたいと思いますし、それがスポーツまた更にラグビーであれば本当に素晴らしい事だと思います。そういった手助け少しでも出来ればと思っております。そして勝つ喜びも知ってもらえたらいいですね。

#### 一年を振り返って

幼稚園コーチ 斉藤 英樹

今年からコーチとして子どもたちと一緒にグラウンドを楽しく走らせていただきました。まだまだ走りたりない部分ありましたが、振り返るとあっという間に過ぎ去った一年でした。  
とても元気な子どもたち、練習中のその大きな声に頼もしさを感じました。また、試合でのこと、その小さな体から放たれる気迫のすごさに、あらためて驚かされました。  
今は土台作りの時期。いろいろなことにチャレンジし、いっぱい失敗して、そこからいろんなことを学んでいって欲しいと思っています。ラグビーを通して一緒に成長していきましょう。  
ほんとうに一年間おつかれさまでした。

#### ラグビー

年長 なかむらかずき

練習や試合で、お友達と一緒に居ることが楽しい。  
トライをたくさん(100回)したい。  
練習で、タックルがうまいと褒められた。

#### ラグビー

年長 わたなべしゅうや

ラグビーの楽しい時は、走っている時です。

#### ラグビー

年長 うしやまそうし

「トライをとると楽しい。だから頑張る」

#### ラグビー

年長 こだまえいと

来年は試合でもっとトライをとりたいです。

#### ラグビー

年中 ふくおかりょう

- ・ラグビーをしていてトライを決められた時が嬉しい。
- ・ラグビーで色々な友達が増えた事も嬉しい。
- ・今後はタックルをもっと頑張って出来るようになりたい。(親としても)

タックル痛い

タックルで頭打つと痛い。でも、お尻に噛みつくんだよね。はやと知ってる。

年中 せんしゅう はやと

ラグビー

お兄ちゃんに負けないように、ラグビーがんばる！

年中 かわいりょうま

ラグビーを通じて

お友達と居る時が一番楽しそうにしている。  
ラグビーを通じてチームでのプレイを徐々に学んでいって欲しい。

年長中村和樹父母

ラグビーを通じて

毎週日曜の朝、日大グランドへ向かう生活もうすぐ2年になります。来春には小学校ということで、改めて時の早さを感じます。  
タイトルのコメントですが、素直なまっすぐな気持ちと、少しずつ周りとの違いも自覚して気にしていたり。なんだかスクールで得た成長がギュッと詰まっているようにも思えて感慨深いです。

年長牛山颯士父



## 県大会試合結果

		10/8	10/28	11/11
Dブロック	勝敗	鎌倉YC	川崎B	横須賀B
6年A	3-0	42○19	112○0	42○18

優勝！

		10/8	11/23	11/11
Eブロック	勝敗	大和B	厚木	藤沢B
6年B	3-0	54○0	82○0	14○12

優勝！

		11/23	11/4	10/14	10/8
Aブロック	勝敗	横須賀A	田園A	藤沢A	相模原
5年	0-4	7●87	7●77	0●63	21●33

		10/14	11/11	11/23	11/4
Aブロック	勝敗	茅ヶ崎	秦野	藤沢A	横浜A
4年A	2-2	62○7	71○0	0●49	31●35

		10/28	11/11	11/7	11/23
Dブロック	勝敗	田園B	海老名	鎌倉C	藤沢C
4年B	3-0-1分	14△14	35○22	64○12	49○33

優勝！

		11/4	10/28	11/23
Hブロック	勝敗	横浜G	大和C	藤沢E
4年C	3-0	85○5	52○0	88○0

優勝！

		11/4	10/7	11/11	11/18
Aブロック	勝敗	横浜A	田園B	藤沢A	相模原A
3年A	0-4	0●79	0●90	33●53	0●70

		10/7	11/4	11/18
Eブロック	勝敗	横須賀C	相模原C	横浜C
3年B	1-1-1分	15△15	52○12	10●29

## 秋季交流大会

9月17日(月祝)

[幼稚園年中]

麻生 ○55-10● 大和

[幼稚園年長]

麻生 ○40-15● 大和A

麻生 ○60-35● 大和B

[1年生]

麻生 ○60-15● 大和A

麻生 ○35-10● 大和B

[2年生]

麻生A ● 0-70○ 大和A

麻生B ● 15-35○ 大和B

麻生A ● 15-50○ 大和C

麻生B ● 35-55○ 大和D

[3年生]

麻生A ● 22-39○ 大和A

麻生B ○20- 5● 大和B

[4年生]

麻生A ○46-15● 大和A

麻生B ○51- 7● 大和B

麻生C ○60- 5● 大和C

[5年生]

麻生 ○85-7● 大和

[6年生]

麻生A(紺) ●21-75○ 大和A

麻生B(赤) ○63- 0● 大和B

## 大和キンダーカップ

11月4日(日)

〔年中交流試合〕

○麻生 7 vs 3 横浜 B×

○麻生 9 vs 6 グリーン×

〔年長 cup 戦〕

(Aブロック予選)

○麻生 7 vs 1 藤沢●

●麻生 3 vs 5 相模原 AO

●藤沢 1 vs 11 相模原 AO

→A ブロック 1位

## 低学年交流大会

11月11日(日)

〔幼稚園:年中〕

麻生 ○55-35● グリーン

〔幼稚園:年長〕

麻生 ○50-20● グリーン

〔1年生〕

麻生 ○65-35● グリーン

〔2年生〕

麻生 ○50- 0● 川崎

麻生 ●15-50○ グリーン

## 前座試合

トップリーグ

10月21日(日)

試合:リコー - キヤノン

前座:2年生

麻生 ●40-60○ 田園

## イーストリーグ

11月3日(土)

三菱重工相模原 G

試合:三菱重工- 日野自動車

前座2年生

麻生 ●15-55○ 大和 B

麻生・相模原 ●30-60○ 大和

# 県大会表彰式



## 編集後記

今年も多くの感動の詰まった県大会号になった。6年生が2チームとも全勝優勝は、くじ運もあったが、まことに素晴らしい結果だと思う。

おめでとう。麻生RSは三浦校長のもと、父母、生徒、コーチの三位一体で、着実に進化している。そう感じさせる内容であった(編集長 毛利)

毎週のように子供たちと接していても一人一人がどんな思いで練習や試合に臨んでいるのか、グラウンドでは窺い知ることはできません。編集作業で原稿をじっくり読むと、子供たちは我々が想像している以上にラグビーに対して「熱い」ことに気付かされ、毎度のことながら嬉しくなります。(副編集長 野田)

子供たちの作品を読んでいて、私の小学校のころを思い出しました。いつの時代も、県大会では様々なことが起こり、大きな感動が生まれるのだと思いました。(6年 宇田)

県大会では、子供達が壁にぶつかり、乗り越えようとする姿に立ち会うことができ、感動しました。  
(4年 清水翔太)

編集委員をさせて頂いて身近に子供達・父兄・コーチの熱い思いを感じる事が出来ました。(3年 濱田)

子どもたちの成長を感じたミルキー大会でした。次は来年の県大会目指して頑張ろう！(2年 津国)

年末お忙しいなか皆様にご協力いただき大変ありがとうございました。子供達・コーチの皆様、そして保護者の皆様の熱い想いが感じられ改めて麻生は三位一体であると実感しました。(1年 原田)